MICRO FOCUS

Silk Test 18.5

インストール ガイド

Micro Focus
The Lawn
22-30 Old Bath Road
Newbury, Berkshire RG14 1QN
UK
http://www.microfocus.com

Copyright © Micro Focus 1992-2017. All rights reserved.

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ及び Silk Test は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2017-10-25

目次

概要 5
システム要件および前提条件 5
ハードウェア要件 5
ソフトウェア要件 5
テストされたソフトウェア 5
管理者権限 9
Silk Test に含まれる項目 9
ライセンス情報 11
Silk Test のライセンス 12
Silk Test ライセンス ポリシーを生成する 12
ホスト ID を調べる 12
Silk Meter のインストール 12
以前のバージョンの Silk Meter をアンインストールする 13
ライセンス サーバー上へ Silk Meter をインストールする 13
ライセンス サーバーの設定の変更 13
Silk Test のインストール 15
インストールの前提条件 15
TEMP 環境変数の再設定 15
Silk Test 実行可能ファイルのダウンロード 16
Silk Test 製品スイートの標準インストール 16
Silk Test 製品スイートの完全インストール 19
Silk Test Workbench のインストール 22
Silk4J のインストール 24
Silk4J Eclipse プラグインの手動インストール 27
Rumba の有効化と無効化 28
Silk4NET のインストール 28
Silk4NET Visual Studio プラグインの手動インストール 31
Silk4NET と Visual Studio 2017 Agent の統合 32
Silk Test Classic のインストール 32
Silk Test 実行環境または Silk Test エージェントのインストール 34
Classic Agent for Unix のインストール 37
Silk Test のアンインストール 37
Silk Test のサイレント モード インストール 38
サイレント インストールのプロパティ ファイルの作成 38
サイレント インストーラの設定 39
Web インストーラを使用したサイレント モードでのインストール 42
インストール CD を使用したサイレント モードでのインストール 43
サイレント インストーラの成功の確認 43
エラー コードの参照 44
サイレント モードでのアンインストール 45
Mac 上の Apple Safari を使用したテストにおける前提条件 46
Silk Test Information Service を Mac にインストールする 46
次に実行すること 47
新しい Silk Test のバージョンへのアップグレード 48
Silk Test Workbench データベースの構成 49
SQL Server データベースの構成 49
SQL Server データベースの新規作成 50
SQL Server 管理ユーザーの新規作成 50
SQL Server におけるユーザーの設定 51

SQL Server Silk Test Workbench データベースの準備 51
Oracle データベースの構成 52
認証方式の選択 52
Oracle データベースの新規作成 54
Oracle OS 認証の設定 54
Oracle クライアントの設定 54
クライアント接続用の Oracle データベースの準備 55
Oracle における Silk Test Workbench のユーザーの設定 56
Oracle データベースの準備 58
ドメインなしでの SQL Server または Oracle データベースの設定 58
ドメインなしでのユーザーの作成 58
ドメインなしでの SQL Server の設定 58
ドメインなしでの Oracle データベースの設定 59
データ ソース名の作成 59
Access データベース用のデータ ソース名の作成 59
SQL Server データベース用のデータ ソース名の作成 60
Oracle データベース用のデータ ソース名の作成 61
データベースへ接続する 61
ログオン 62
ログオン パスワードの変更 62
データベース接続の構成 62

概要

このヘルプでは、Silk Test のインストールとアンインストールに必要なすべての情報を提供します。 ハードウェア要件とソフトウェア要件について説明し、さまざまな設定オプションの詳細について説明します。

システム要件および前提条件

以下のセクションでは、Silk Test をインストールして実行するためのシステム要件を示します。

ハードウェア要件

Micro Focus では、以下のハードウェア要件をお勧めします。

システム領域	要件
プロセッサ	Intel または AMD の Dual-Core プロセッサ（2 GHz）
RAM	1 GB の空きメモリ
ハード ディスク領域	2 GB の空きディスク領域

注: 自作機 (ベアボーンキット、ショップ ブランド機を含む) は動作保証外です。 推奨するハードウェアは、Silk Test の最低限の要件を提示したものです。テスト対象アプリケーションやテスト環境の要件によっては、追加のハードウェアが必要となる場合があります。

iOS デバイス上でテストする場合は、1 GB 以上の RAM を持つデバイスを使用することを Micro Focus では推奨しています。

iOS 上で、Apple Safari の Web アプリケーションやモバイル アプリケーションをテストするには、次のハードウェアの Mac が必要です。

システム領域	要件
オペレーティング システム	OS X El Capitan 10.11.3 以降
ハード ディスク領域	1 GB の空きディスク領域

ソフトウェア要件

Silk Test をインストールして実行するには、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

- Microsoft .NET Framework 4.6 (フルセットアップ)
- *Windows Update 3118401 (Windows での汎用の C ランタイム)*

テストされたソフトウェア

このセクションでは、Silk Test 18.5 がテストされたソフトウェアを一覧します。

オペレーティング システム

Silk Test 18.5 は、次のオペレーティング システムでテストされました。

- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2008 R2

- Microsoft Windows 7 SP1
- Microsoft Windows 8 (Windows ストア アプリ以外)
- Microsoft Windows 8.1 (Windows ストア アプリ以外)
- Microsoft Windows Server 2012
- Microsoft Windows Server 2012 R2
- Microsoft Windows 10 (ユニバーサル Windows プラットフォーム以外)
- Microsoft Windows Server 2016

Web アプリケーション

Open Agent の場合、Silk Test 18.5 は次のブラウザーおよび Web テクノロジに対してテストされました。

テクノロジの種類	テストしたバージョン
Mozilla Firefox**	41、42、43、44、45 (ESR*)、46、47.0.1、47.0.2、52 (ESR*)***、53*** 、54***、55***、56***  **注:** 互換性に問題があるため、Silk Test 18.5 は Mozilla Firefox 48、49、50、51 をサポートしません。
Google Chrome**	52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62
Chrome for Android	
Original Stock Android Browser (AOSP)	
iOS 上の Apple Safari	9、10.1、11
Mac 上の Apple Safari	9、10.1、11
Mac OS (Apple Safari または iOS のテストに使用)	10.11.3、10.12、10.13
Internet Explorer	8、9、10、11
Microsoft Edge	Windows 10 Anniversary Update (38.14393)、Windows 10 Creators Update (40.15063)、Windows 10 Fall Creators Update (10.0.16299.19)
Android	4.4、5.x、6.x、7.x、8.x
iOS	9.3、10.x、11.x
Xcode	Xcode 8.3.x、Xcode 9.x
Silverlight	3 (Silverlight Runtime 4)、4 (Silverlight Runtime 4 および Silverlight Runtime 5)  **注:** Microsoft は、Silverlight 5.0 を 2021 年までサポートすることをコミットしましたが、Silverlight の今後のロードマップに関する具体的な情報は何もなされませんでした。我々はお客様に対する最高のサポートを維持するよう努力しますが、このプラットフォームに対する Microsoft から得られるサポートに限界がある可能性があります。
Apache Flex (Internet Explorer のみ)	Silk Test 18.5 は、Apache Flex バージョン 3.5 から Apache Flex バージョン 4.14.1 まで、および Adobe AIR 2.0 以降 (Apache Flex 4.x でビルド) を使用してテストされました。 Silk Test は Adobe Flash Player 10 以降をサポートしています。
Java アプレット (Internet Explorer のみ)	Silk Test は、Internet Explorer 上で実行する Web アプリケーションでのアプレットをサポートします。

テクノロジの種類	テストしたバージョン
HTML5	
Oracle Forms	10g および 11g (Internet Explorer 用)

* 延長サポート版 (Extended Support Release)。

** このリストには、Silk Test 18.5 のリリースまでに Silk Test 18.5 でテストされたブラウザーのバージョンが含まれます。ブラウザー側で互換性が保たれていれば、Silk Test 18.5 は新しいバージョンを使用してテストできます。

*** Mozilla Firefox の以前のバージョンと異なり、Mozilla Firefox 52 以降のバージョンには、いくつかの制限事項があります。制限事項についての詳細は、Silk Test クライアントのドキュメントを参照してください。

ネイティブ モバイル アプリケーション

Open Agent の場合、Silk Test 18.5 は次のモバイル オペレーティング システムに対してテストされました。

テクノロジの種類	テストしたバージョン
Mac OS (Apple Safari または iOS のテストに使用)	10.11.3、10.12
Android	4.4、5.x、6.x、7.x、8.x
iOS	9.3、10.x、11.x

デスクトップ アプリケーション

Open Agent の場合、Silk Test 18.5 は次のテクノロジの 1 つで開発されたデスクトップ アプリケーションに対してテストされました。

テクノロジの種類	テストしたバージョン
Java AWT/Swing (Java Foundation Classes を含む)	Java 6、Java 7、Java 8
Java SWT	Java 6、Java 7、Java 8 Silk Test 18.5 は Java SWT バージョン 3.2 以降に対してテストされました。 Silk Test では、スタンドアロンおよび Rich Client Platform (RCP) アプリケーションがサポートされます。
SAP*	SAPGUI クライアント 7.10、SAPGUI クライアント 7.20、SAPGUI クライアント 7.30、SAPGUI クライアント 7.40、SAPGUI クライアント 7.50
Rumba	8.1、8.2、8.3、9.0、9.1、9.2、9.3、9.4、9.5
Visual COBOL	
Win 32	任意
WinForms	.NET 3.0、3.5、3.5 SP1、4.0、4.5、4.6
WPF	.NET 3.5 SP1、4.0、4.5、4.6

* SAP アプリケーションのテスト時の問題を避けるため、Micro Focus では最新のパッチセットをインストールすることを推奨します。

Silk Test Workbench

Silk Test 18.5 は Silk Test Workbench 資産の格納用に次のデータベースに対してテストされました。

- Microsoft SQL Server 2008 (SP2) + Express
- Microsoft SQL Server 2012
- Microsoft SQL Server 2012 SP1
- Microsoft SQL Server 2014
- Microsoft SQL Server 2016
- Microsoft SQL Server 2017
- Oracle 11.1

  注: Oracle 11 ODBC ドライバは、パッチ レベル 4 (11.2.0.4.0) 以降が必要です。Oracle パッチ 13390677 には正しいドライバが含まれています。パッチは、ここ からダウンロードできます。
- Oracle 11.2

  注: Oracle 11 ODBC ドライバは、パッチ レベル 4 (11.2.0.4.0) 以降が必要です。Oracle パッチ 13390677 には正しいドライバが含まれています。パッチは、ここ からダウンロードできます。
- Oracle 12.1。Silk Test Workbench は、AL32UTF8 文字エンコードの Oracle 12.1 データベースをサポートします。
- Microsoft Access 2000 (シングルユーザー データベースとして)

注: Micro Focus は、Microsoft SQL Server を使用することを推奨します。

Silk4J

Eclipse 3.7.2 以降では、32 ビットおよび 64 ビットの両方で Silk4J を統合できます。バージョン 4.7 は Silk Test に付属しています。

Silk4NET

Silk4NET は Microsoft Visual Studio の次のエディションと統合できます。

バージョン	エディション
Visual Studio 2012	• Professional • Ultimate
Visual Studio 2013	• Community • Professional • Premium • Ultimate
Visual Studio 2015	• Community • Professional • Enterprise
Visual Studio 2017	• Community • Professional • Enterprise

Silk Test Classic

Silk Test Classic のデータ ドリブン ワークフローは、以下に対してテストされました。

- テキスト ファイルおよびカンマ区切り値ファイル（*.txt ファイルおよび *.csv ファイル）
- MS Excel
- MS Access
- MS SQL Server
- Oracle（部分的なサポート）
- SyBase SQL Anywhere

Silk Test Classic は、ODBC を使用して上記のデータベースにアクセスするため、有効な ODBC ドライバを持つこれらのデータベースのバージョンに対してテストされました。

Silk Test Classic の **Select Data Source** ダイアログ ボックスで、Silk DDA Excel または Segue DDA Excel のいずれかのデータ ソースを選択できます。新しいデータ ドリブン テストケースの場合は、Silk DDA Excel データ ソースを選択します。Segue DDA Excel データ ソースは後方互換性のために選択します。これにより、Segue DDA Excel を参照する既存の .g.t ファイルが引き続き機能します。

重要: このドキュメントに記載された情報は、Silk Test の本バージョンのリリース時点のものに限られますが、サポートしているソフトウェアとテクノロジに対する新しいリリースと ランタイムのバージョンについては、可能な限り対応するよう努めます。サポートするソフトウェアの新しいリリースとバージョン、あるいは記載されていないソフトウェアに関してご質問がある場合には、Micro Focus までお問い合わせください。

管理者権限

Silk Test をインストールするには、ローカルの管理者権限を持っている必要があります。Silk Test が正しくインストールされたあと、次のタスクを実行するためにも管理者権限が必要となります。

- Silk Test Classic の実行。
- Silk Test Workbench 用データベースの設定。

Silk Test に含まれる項目

Silk Test をインストールすると、以下の項目を利用できます。

- すべてのクライアントに直接リンクしている Silk Test 開始画面。
- Silk Test Workbench
- Silk Test Classic
- Silk Test エージェント
- Silk4NET
- Silk4J
- 製品ドキュメント

  各製品の **ヘルプ** メニューからドキュメントにアクセスします。
- リリース ノート

  新しい機能、サポートするプラットフォーム、テスト済みのバージョンについての情報は、『リリース ノート』を参照してください。
- チュートリアル

  チュートリアルには (Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **ドキュメント** > **チュートリアル** または **ヘルプ** > **チュートリアル** からアクセスします

  PDF ドキュメントを表示するには、Adobe Acrobat Reader™ が必要です。
- 次のサンプル アプリケーションをオンラインで入手できます。

Adobe Flex サンプル アプリケーション	*http://demo.borland.com/flex/SilkTest18.5/index.html*
Insurance Company Web アプリケーション	Insurance Company Web アプリケーションは Silk Test Workbench および Silk Test Classic のチュートリアルで使用します。Web アプリケーションには、*http://demo.borland.com/InsuranceWebExtJS/* からアクセスできます。
Green Mountain Outpost (GMO) Web アプリケーション	GMO アプリケーションは Silk Test Classic のチュートリアルで使用します。Web アプリケーションには、*http://demo.borland.com/gmopost* からアクセスできます。
Green Mountain Outpost (GMO) AJAX Store の実装	AJAX ベースの GMO サンプル アプリケーションを使用すると、モダン Web アプリケーションの AJAX 同期や他の主要な機能をテストすることができます。Web アプリケーションには、*http://demo.borland.com/gmoajax* からアクセスできます。

ライセンス情報

評価版を使用しているのでない限り、Silk Test はライセンスを必要とします。

注: Silk Test ライセンスは、Silk Test の特定のバージョンに固定されています。たとえば、Silk Test 18.5 には Silk Test 18.5 のライセンスが必要です。

ライセンス モデルは、使用しているクライアントとテストすることができるアプリケーションに基づきます。利用可能なライセンス モードに応じて、次のアプリケーションの種類がサポートされます。

ライセンス モード	アプリケーションの種類

モバイル ネイティブ	• モバイル Web アプリケーション
	  • Android
	  • iOS
	• ネイティブ モバイル アプリケーション
	  • Android
	  • iOS

フル	• Web アプリケーション (以下を含む)
	  • Apache Flex
	  • Java アプレット
	• モバイル Web アプリケーション
	  • Android
	  • iOS
	• Apache Flex
	• Java AWT/Swing (Oracle Forms を含む)
	• Java SWT と Eclipse RCP
	• .NET (Windows Forms および Windows Presentation Foundation (WPF) を含む)
	• Rumba
	• Windows API ベース
	注: ライセンスをフル ライセンスにアップグレードする場合は、*http://www.microfocus.co.jp* に移動します。

プレミアム	フル ライセンスでサポートされるすべてのアプリケーションの種類 + SAP アプリケーション **注:** ライセンスをプレミアム ライセンスにアップグレードする場合は、*http://www.microfocus.co.jp* に移動します。
モバイル ネイティブ アドオン	フル ライセンスとプレミアム ライセンスでサポートされるテクノロジに加えて、モバイル ネイティブ アドオン ライセンスによって、Android と iOS 上でのネイティブ モバイル アプリケーション テストのサポートを提供します。

Silk Test のライセンス

このセクションでは、Silk Test のライセンス ポリシーの取得方法と、Silk Meter のインストール方法について説明します。 Silk Meter をインストールするには、管理者権限を持っている必要があります。

注: Silk Test には、Silk Meter バージョン 2008 以降と Silk Test ライセンス ポリシーが必要です。

Silk Meter のインストールは、ライセンス サーバー 1 つにつき 1 回です。 複数のライセンス サーバーを持っている場合には、複数のライセンス ポリシー ファイルが必要となります。各ファイルは、それぞれ特定のライセンス サーバーに関連付けられています。 1 つの Silk Meter ライセンス サーバーが、複数の製品のためのライセンス ポリシーを処理することができます。

Silk Test ライセンス ポリシーを既にお受け取りの場合には、そのライセンス ポリシーをライセンス サーバー上へインストールしてください。 ライセンス ポリシーをまだ受け取っていない場合には、ライセンス ポリシーを生成します。

Silk Test ライセンス ポリシーを生成する

Silk Test を実行するにはライセンス ポリシーが必要です。オンラインの License Generator を使用してライセンス ポリシーを生成できます。オンラインのライセンス生成プログラムにアクセスするには、Firefox や Internet Explorer などの SSL 対応ブラウザが必要です。ライセンス ポリシーの生成方法に関する指示が含まれた電子メールを受け取ります。これらの指示がなかった場合は、*http://support.microfocus.com* でカスタマー ケアにお問い合わせください。

ホスト ID を調べる

ライセンス ポリシー ファイルを得るためには、ライセンスをインストールするマシンのホスト ID を知る必要があります。フローティング ライセンスの場合は、Silk Meter がインストールされたライセンス サーバーです。ノードロック ライセンスの場合は、通常はコントローラ マシンになります。

1. マシン上でコマンド プロンプトを開いて、コマンド ipconfig/all を入力します。ネットワーク アダプタとさまざまな情報が表示されます。
2. LAN カードの MAC アドレスまたは物理アドレスであるホスト ID (00-BF-00-1C-D3-3D など) を確認します。

   ヒント: 仮想マシンや VPN 接続が設定されている場合など、システムの設定によっては、コンピュータに異なる MAC アドレスを持つ複数のネットワーク アダプタが存在することがあります。物理 LAN カードのホスト ID を確認してください。

Silk Meter のインストール

Silk Test ライセンス ポリシー ファイルをお持ちの場合には、Silk Meter をインストールする際に、そのポリシーをインストールすることができます。有効な Silk Test ライセンスをお持ちでない場合は、オンラインのライセンス生成プログラムを使用してライセンス ポリシー ファイルを生成してください。

ライセンス サーバー上に Silk Meter をインストールして実行するためには、ライセンス ポリシー ファイルは必要ありません。しかし、Silk Test を実行する前に、ライセンス ポリシー ファイルをインポートする必要があります。Silk Meter**Policy Administrator**. を使用してライセンス ポリシー ファイルをインポートできます。

複数のライセンス サーバーを持っている場合には、複数のライセンス ポリシー ファイルが必要となります。各ファイルは、それぞれ特定のライセンス サーバーに関連付けられています。1 つの Silk Meter ライセンス サーバーで、複数の製品のライセンス ポリシー ファイルを管理できます。

Silk Meter ライセンス サーバーの要件

Silk Meter をインストールする前に、リリース ノートを参照して、ライセンス サーバーが要件を満たしていることを確認します。

以前のバージョンの Silk Meter をアンインストールする

Silk Meter の以前のバージョンがライセンス サーバーにインストールされている場合は、最新バージョンの Silk Meter をインストールする前にアンインストールする必要があります。

1. **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Meter** > **Uninstall** を選択します。
2. **Yes** をクリックして Silk Meter をアンインストールします。**Remove Settings** ダイアログ ボックスが開きます。
3. **No** をクリックした場合には、Silk Meter の設定が保持されます。

   注目: 現在、Silk Meter ライセンス サーバー上に存在するライセンス ポリシーを維持するには、**No** をクリックしなければなりません。
4. コンピュータを再起動します。

Silk Meter がアンインストールされ、最新バージョンの Silk Meter がインストール可能になりました。

ライセンス サーバー上へ Silk Meter をインストールする

Silk Meter をインストールする前に、以下の情報を確認してください。

- ユーザー アカウントに管理者権限があること。
- Silk Meter のインスタンスがライセンス サーバーにインストールされていないこと。

1. 製品更新サイト を開いて、Silk Meter を検索します。
2. 最新の **Silk Meter インストール ファイル** をダウンロードし保存します。
3. EXE ファイルを保存した場所まで移動して、ダブルクリックします。標準インストールの場合、デフォルトのオプションで Silk Meter インストール ウィザードの指示に従ってください。

   重要: セットアップによってコンピュータを再起動することを要求された場合は、コンピュータを再起動します。

ライセンス サーバーの設定の変更

Select Silk Meter License Server ユーティリティを使用して、ライセンス サーバーの設定を変更または修正します。このユーティリティは、Silk Test セットアップによってインストールされます。

1. **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test 管理ツール** > **ライセンス サーバー構成の変更** を選択します。**Select Silk Meter License Server** ユーティリティが開きます。
2. **Application** リスト ボックスから、ライセンス サーバーを設定する製品を選択します。
3. **Using local or remote server** オプション ボタンをクリックして、Silk Meter ライセンス サーバーを設定します。
4. **License Server Host** フィールドに、Silk Meter ライセンス サーバーのコンピュータ名を入力します。

   ネットワーク管理者が別のポートを定義したのでないかぎり、**Port Number** は変更しないでください。

5. **Apply** をクリックして、ライセンス サーバーの設定をアクティブ化します。
6. **Test connection** をクリックして、指定したホスト、ポート上で Silk Meter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。接続に成功すると、**Status** フィールドに SUCCESS メッセージが表示されます。

   注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** フィールドに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前で指定すると、うまくいかない場合があります。Silk Meter ライセンス サーバーとの接続に失敗しました というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。
7. **Close** をクリックして、ライセンス サーバーの設定を完了します。

Silk Test のインストール

このセクションでは、Silk Test をインストールするときに使用できる設定オプションについて説明します。

インストールの前提条件

Silk Test をインストールする前に、以下の作業を行ってください。

- ユーザー アカウントにローカルの管理者権限があることを確認してください。
- Silk Test のインストール中、Windows Defender が無効であることを確認してください。インストール中に Windows Defender をシステムで有効にすると、インストールが完了した後に Open Agent を起動できなくなる場合があります。Windows Defender は、Silk Test のセットアップに必要な操作を妨げる場合があります。
- ファイル msvcp60.dll が Windows System32 ディレクトリ (windows¥system32 または winnt ¥system32) にインストールされていることを確認してください。

  このファイルは、標準の Windows インストールの一部として自動的にインストールされます。msvcp60.dll が System32 ディレクトリにない場合は、Windows エクスプローラを使用して検索し、System32 ディレクトリにコピーします。このファイルが見つからない場合は、インストール CD で検索するか、最新のサービス パックにアップグレードします。
- **注:** .NET Framework を Windows Server 2008 などのサーバー システムで使用するには、**サーバー マネージャ** で .NET Framework を有効にします。.NET Framework を有効にしなかった場合、ロール管理ツールを使用する必要があることを示すダイアログ ボックスが表示され、Silk Test セットアップ プロセスが停止します。
- 次のアプリケーションを閉じます。
  - Microsoft Visual Studio
  - Eclipse
  - Silk Central 実行サーバー
  - Silk Test エージェント
- インタネットに接続していない環境でインストールを行う場合、Visual C++ 再頒布可能パッケージのインストールでエラーが発生する場合は、*https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/3149737* を参照して解決策を探してください。

TEMP 環境変数の再設定

Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

1. **スタート** > **設定** > **コントロール パネル** を選択します。
2. **システム** をダブルクリックします。
3. **詳細設定** タブを選択し、**環境変数** をクリックします。
4. **ユーザー環境変数** または **システム環境変数** の下の *TEMP* 変数をダブルクリックします。
5. 有効なディレクトリを入力して、**OK** をクリックします。
6. EXE ファイルをダブルクリックして、Silk Test のインストールを再び開始します。

Silk Test 実行可能ファイルのダウンロード

インストール CD を持っていない場合には、Silk Test 実行可能ファイルをダウンロードします。

1. *http://supportline.microfocus.com/* に移動します。
2. **User Name** および **Password** テキスト ボックスに、顧客 ID およびパスワードを入力します。
3. **Submit** をクリックして Silk Test に移動し、インストールするバージョンを選択します。
4. このファイルを保存する場所を指定して、**Save** をクリックします。
   代替方法： ブラウザから EXE ファイルをダブルクリックして、ファイルを実行します。

実行可能ファイルを使用して、Silk Test をインストールします。

Silk Test 製品スイートの標準インストール

作業を開始する前に、Silk Test の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

Silk Test の標準インストール（Silk Test Workbench、Silk Test エージェント、Silk Test Recorder、Silk4J、Silk4NET を含む）をインストールします。標準インストールでは、テストの記録、テスト スクリプトの作成、テストの実行、およびテスト結果の表示を行うことができます。

1. Silk Test の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。
   Silk Test の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行...** を選択し、<CD ドライブ>:¥setup.exe を入力して、Silk Test セットアップ プログラムを手動で開始します。

   注: Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

   InstallAnywhere ウィザードが開きます。
2. 前のバージョンの Silk Test がインストールされている場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。
   以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。**使用許諾契約** が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
   Silk Test のインストール時に使用許諾契約の条項に同意することにより、Silk Test の使用方法に関する情報と、Silk Test をインストールしたコンピューターに関する情報の収集を Micro Focus に許可したことになります。Micro Focus は、名前や住所などの個人の特定を可能にする情報の収集や、スクリプトやパスワードなどのデータ ファイルの収集は行いません。Silk Test クライアントの **バージョン情報** ダイアログから、このデータ収集設定をいつでも無効にできます。詳細については、クライアントのヘルプを参照してください。
5. **次へ** をクリックします。**インストール セットの選択** ページが開きます。
6. リストから **標準** を選択します。
7. Silk Test のショートカット アイコンをデスクトップに追加するには、**デスクトップ ショートカットの作成** チェック ボックスをチェックします。
8. **次へ** をクリックします。**インストール フォルダの選択** ページが開きます。
9. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。
   a) **選択** をクリックします。 **フォルダの参照** ダイアログ ボックスが開きます。

b) Silk Test をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

注: Silk Test は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。また、Silk Test を C:/Program Files にインストールとすることを Micro Focus では推奨しています。 他の場所にインストールした場合、Silk Test の一部の機能が正しく機能しない可能性があります。無効なインストール先を指定した場合、エラー メッセージが表示されます。

場所がテキスト フィールドに表示されます。

10 **次へ** をクリックします。**Silk4J へようこそ** ページが開きます。

11 Silk4J をインストールするときに新しい Eclipse 環境をインストールするかどうかを指定します。

a) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **Eclipse (200MB) をダウンロードして Silk4J をインストール**: Silk4J および Eclipse 環境をインストールするには、このオプションをクリックします。
- **既存の Eclipse 環境 (バージョン 3.7 以降) を使用して Silk4J をインストール**： Silk4J で既存の Eclipse 環境を使用するには、このオプションをクリックします。**参照** をクリックして、使用する Eclipse 環境に移動します。
- **Silk4J を手動でインストール**： Silk4J を Eclipse 環境に手動でインストールするには、このオプションをクリックします。dropins という名前のフォルダが Silk Test インストール ディレクトリに作成されます。このフォルダを有効な Eclipse ディレクトリにコピーして Silk4J を使用します。

b) **次へ** をクリックします。

インストールが完了したら、(Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **クライアント** > **Silk4J**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk4J** をクリックして Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンライン ヘルプを参照してください。

12 既存の Visual Studio 環境で使用するように Silk4NET をインストールするかどうかを指定します。

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテストスクリプトを作成できます。

注: VB.NET と C# 開発用の Visual Studio コンポーネントが、Silk4NET を使用する Visual Studio のインストールで利用可能であることを確認してください。

a) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **既存の Visual Studio 2012 以降の環境を使用して Silk4NET をインストール**： 既存の Visual Studio 2012 以降の環境を使用するには、このオプションをクリックします。
- **Silk4NET を手動でインストール**： Silk4NET のインストールをあとで完了するには、このオプションをクリックします。Visual Studio 2012 以降がマシンにインストールされていない場合は、このオプションを選択する必要があります。詳細については、「*Silk4NET Visual Studio* プラグインの手動インストール」を参照してください。

b) **次へ** をクリックします。

Visual Studio を起動すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。

13 Mac 上の Apple Safari や iOS デバイス上のモバイル ネイティブ アプリケーションをテストするには、**Silk Test macOS セットアップのダウンロード** チェック ボックスをチェックします。

注: Silk Test のインストールが完了した後で、Max 上で OS X セットアップをインストールする必要があります。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。

14 **次へ** をクリックします。**ファイアウォールの例外** ページが開きます。

15. すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を作成するには、**Windows ファイアウォール例外の追加** チェック ボックスをチェックします。

注: このチェック ボックスをチェックすることで、Silk Test を使用してリモート テストを行うことができるようになります。このチェック ボックスをチェックしないと、リモート テストを実行することはできません。また、Silk Test を起動するたびに、Silk Test 実行可能ファイルをブロックするか許可するかを確認されます。

重要: アプリケーションのリモート テストは、セキュリティ リスクとなる可能性があります。リモート テストは信頼できる開発環境で、かつ制御可能なネットワーク上でのみ実行されるべきです。リモート テストの実行は、ユーザー自身の責任において行ってください。

16 **次へ** をクリックします。

17 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

ヒント: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp で、e:¥SilkTest にインストールする場合、E ドライブにはインストールに十分な領域があっても、D ドライブが不十分だとエラーの原因になります。

ステータス バーにより、インストール処理の状況がわかります。

18 省略可能：**使用状況データの収集** ページで、次のいずれかをクリックします。

- 使用状況データの収集を Micro Focus に許可する場合は、**はい、参加します** をクリックします。
- Micro Focus が使用状況データを収集できないようにするには、**いいえ、参加しません** をクリックします。

19 **次へ** をクリックします。

20 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **評価版** Silk Test の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- **完全版**： ライセンスが必要な Silk Test の無制限版をインストールします。

21 **Silk Meter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスが開きます。このユーティリティは、ローカル システム内に、Silk Meter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つかれば、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスがデフォルトの設定と共に表示されます。次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する

ライセンス サーバー ホスト テキスト ボックスに、Silk Meter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。デフォルト **ポート番号** の 5461 は、ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではない限り、変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で Silk Meter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前で指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する

Silk Test をスタンドアロンで実行します。**選択** をクリックして、ライセンス ファイルを選択します。



注: ライセンス ファイルは後からでもインポートできます。このステップをスキップする場合には、**閉じる** をクリックします。**Silk Standalone License Installer** は、Silk Test と共に **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** の下にインストールされます。

22次へ をクリックします。



便利な方法: リモート Silk Meter ライセンス サーバーを使用して Silk Test を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行** を選択して ping localhost または ping <license server name> を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

23完了 をクリックします。

Silk Test 製品スイートの完全インストール

作業を開始する前に、Silk Test の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

Silk Test の完全インストールをインストールします。完全インストールには、Silk Test Classic、Classic Agent、Silk TrueLog Explorer が、Silk Test Workbench、Silk Test Open Agent、Silk Test Recorder、Silk4J、Silk4NET に加えて含まれます。

1. Silk Test の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

   Silk Test の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行...** を選択し、<CD ドライブ>:¥setup.exe を入力して、Silk Test セットアップ プログラムを手動で開始します。

   

   注: Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

   InstallAnywhere ウィザードが開きます。
2. 前のバージョンの Silk Test がインストールされている場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。

   以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。**使用許諾契約** が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。

   Silk Test のインストール時に使用許諾契約の条項に同意することにより、Silk Test の使用方法に関する情報と、Silk Test をインストールしたコンピューターに関する情報の収集を Micro Focus に許可したことになります。Micro Focus は、名前や住所などの個人の特定を可能にする情報の収集や、スクリプトやパスワードなどのデータ ファイルの収集は行いません。Silk Test クライアントの **バージョン情報** ダイアログから、このデータ収集設定をいつでも無効にできます。詳細については、クライアントのヘルプを参照してください。
5. **次へ** をクリックします。**インストール セットの選択** ページが開きます。
6. リストから **完全** を選択します。

   完全インストールでは、テストの記録、テスト スクリプトの作成、テストの実行、およびテスト結果の表示を行うことができます。

   Silk Test Runtime 以外の各オプションの隣にチェックマークが表示されます。

   

   注: 完全インストールには Silk Test の Windows および .NET 拡張キットが含まれています。これらは Silk Test Classic Agent のインストールの一部として含まれています。

7. Silk Test のショートカット アイコンをデスクトップに追加するには、**デスクトップ ショートカットの作成** チェック ボックスをチェックします。
8. **次へ** をクリックします。**インストール フォルダの選択** ページが開きます。
9. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。
   a) **選択** をクリックします。 **フォルダの参照** ダイアログ ボックスが開きます。
   b) Silk Test をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

   注: Silk Test と Silk Test Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

   注: Silk Test は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。また、Silk Test を C:/Program Files にインストールとすることを Micro Focus では推奨しています。 他の場所にインストールした場合、Silk Test の一部の機能が正しく機能しない可能性があります。無効なインストール先を指定した場合、エラー メッセージが表示されます。

   場所がテキスト フィールドに表示されます。
10. **次へ** をクリックします。**Silk4J へようこそ** ページが開きます。
11. Silk4J をインストールするときに新しい Eclipse 環境をインストールするかどうかを指定します。
   a) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

   - **Eclipse (200MB) をダウンロードして Silk4J をインストール**: Silk4J および Eclipse 環境をインストールするには、このオプションをクリックします。
   - **既存の Eclipse 環境 (バージョン 3.7 以降) を使用して Silk4J をインストール**： Silk4J で既存の Eclipse 環境を使用するには、このオプションをクリックします。**参照** をクリックして、使用する Eclipse 環境に移動します。
   - **Silk4J を手動でインストール**： Silk4J を Eclipse 環境に手動でインストールするには、このオプションをクリックします。dropins という名前のフォルダが Silk Test インストール ディレクトリに作成されます。このフォルダを有効な Eclipse ディレクトリにコピーして Silk4J を使用します。

   b) **次へ** をクリックします。

   インストールが完了したら、(Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **クライアント** > **Silk4J**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk4J** をクリックして Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンライン ヘルプを参照してください。
12. 既存の Visual Studio 環境で使用するように Silk4NET をインストールするかどうかを指定します。

   Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテストスクリプトを作成できます。

   注: VB.NET と C# 開発用の Visual Studio コンポーネントが、Silk4NET を使用する Visual Studio のインストールで利用可能であることを確認してください。

   a) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

   - **既存の Visual Studio 2012 以降の環境を使用して Silk4NET をインストール**： 既存の Visual Studio 2012 以降の環境を使用するには、このオプションをクリックします。
   - **Silk4NET を手動でインストール**： Silk4NET のインストールをあとで完了するには、このオプションをクリックします。Visual Studio 2012 以降がマシンにインストールされていない場合は、このオプションを選択する必要があります。詳細については、「*Silk4NET Visual Studio* プラグインの手動インストール」を参照してください。

   b) **次へ** をクリックします。

   Visual Studio を起動すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。
13. Mac 上の Apple Safari や iOS デバイス上のモバイル ネイティブ アプリケーションをテストするには、**Silk Test macOS セットアップのダウンロード** チェック ボックスをチェックします。

注: Silk Test のインストールが完了した後で、Max 上で OS X セットアップをインストールする必要があります。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。

14 **次へ** をクリックします。**ファイアウォールの例外** ページが開きます。

15 すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を作成するには、**Windows ファイアウォール例外の追加** チェック ボックスをチェックします。

注: このチェック ボックスをチェックすることで、Silk Test を使用してリモート テストを行うことができるようになります。このチェック ボックスをチェックしないと、リモート テストを実行することはできません。また、Silk Test を起動するたびに、Silk Test 実行可能ファイルをブロックするか許可するかを確認されます。

重要: アプリケーションのリモート テストは、セキュリティ リスクとなる可能性があります。リモート テストは信頼できる開発環境で、かつ制御可能なネットワーク上でのみ実行されるべきです。リモート テストの実行は、ユーザー自身の責任において行ってください。

16 **次へ** をクリックします。

17 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

ヒント: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp で、e:¥SilkTest にインストールする場合、E ドライブにはインストールに十分な領域があっても、D ドライブが不十分だとエラーの原因になります。

ステータス バーにより、インストール処理の状況がわかります。

18 省略可能：**使用状況データの収集** ページで、次のいずれかをクリックします。

- 使用状況データの収集を Micro Focus に許可する場合は、**はい、参加します** をクリックします。
- Micro Focus が使用状況データを収集できないようにするには、**いいえ、参加しません** をクリックします。

19 **次へ** をクリックします。

20 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **評価版** Silk Test の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- **ライセンス版** –ライセンスが必要な Silk Test の無制限版をインストールします。

21 **Silk Meter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスが開きます。このユーティリティは、ローカル システム内に、Silk Meter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つかれば、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスがデフォルトの設定と共に表示されます。次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する

ライセンス サーバー ホスト テキスト ボックスに、Silk Meter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。デフォルト **ポート番号** の 5461 は、ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではない限り、変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で Silk Meter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前で指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the

hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する Silk Test をスタンドアロンで実行します。**選択** をクリックして、ライセンス ファイルを選択します。

注: ライセンス ファイルは後からでもインポートできます。このステップをスキップする場合には、**閉じる** をクリックします。**Silk Standalone License Installer** は、Silk Test と共に **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** の下にインストールされます。

22 **次へ** をクリックします。

便利な方法: リモート Silk Meter ライセンス サーバーを使用して Silk Test を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行** を選択して ping localhost または ping <license server name> を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

23 インストールを完了するためにシステムを再起動するかどうかを指定し、**完了** をクリックします。

注目: Silk Test Classic を正しく機能させるには、コンピュータを再起動する必要があります。

Silk Test Workbench のインストール

Silk Test Workbench は、品質テスト環境です。上級者用の .NET スクリプトと、より幅広い利用者がテストを行えるようにする使いやすいビジュアル テストが提供されます。Silk Test Workbench は、完全インストールまたは標準インストールを選択すると、自動的にインストールされます。基本インストールを選択した場合は、他のコンポーネントをインストールしないで Silk Test Workbench をインストールできます。Silk Test Workbench をインストールすると、Open Agent もインストールされます。Silk Test Workbench を実行するには、Open Agent が必要です。

1. Silk Test の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。
   Silk Test の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行...** を選択し、<CD ドライブ>:¥setup.exe を入力して、Silk Test セットアップ プログラムを手動で開始します。

   注: Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

   InstallAnywhere ウィザードが開きます。
2. 前のバージョンの Silk Test がインストールされている場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。
   以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。**使用許諾契約** が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
   Silk Test のインストール時に使用許諾契約の条項に同意することにより、Silk Test の使用方法に関する情報と、Silk Test をインストールしたコンピューターに関する情報の収集を Micro Focus に許可したことになります。Micro Focus は、名前や住所などの個人の特定を可能にする情報の収集や、スクリプトやパスワードなどのデータ ファイルの収集は行いません。Silk Test クライアントの **バージョン情報** ダイアログから、このデータ収集設定をいつでも無効にできます。詳細については、クライアントのヘルプを参照してください。

5. **次へ** をクリックします。**インストール セットの選択** ページが開きます。
6. リストから **基本** を選択します。

   基本インストールでは、Silk Test Workbench、Silk Test Recorder、および Open Agent がインストールされます。
7. Silk Test のショートカット アイコンをデスクトップに追加するには、**デスクトップ ショートカットの作成** チェック ボックスをチェックします。
8. **次へ** をクリックします。**インストール フォルダの選択** ページが開きます。
9. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。

   a) **選択** をクリックします。 **フォルダの参照** ダイアログ ボックスが開きます。

   b) Silk Test をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

   注: Silk Test と Silk Test Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

   注: Silk Test は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。また、Silk Test を C:/Program Files にインストールとすることを Micro Focus では推奨しています。 他の場所にインストールした場合、Silk Test の一部の機能が正しく機能しない可能性があります。無効なインストール先を指定した場合、エラー メッセージが表示されます。

   場所がテキスト フィールドに表示されます。
10. **次へ** をクリックします。**OS X セットアップのダウンロード** ページが開きます。
11. Mac 上の Apple Safari や iOS デバイス上のモバイル ネイティブ アプリケーションをテストするには、**Silk Test macOS セットアップのダウンロード** チェック ボックスをチェックします。

    注: Silk Test のインストールが完了した後で、Max 上で OS X セットアップをインストールする必要があります。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。
12. **次へ** をクリックします。**ファイアウォールの例外** ページが開きます。
13. すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を作成するには、**Windows ファイアウォール例外の追加** チェック ボックスをチェックします。

    注: このチェック ボックスをチェックすることで、Silk Test を使用してリモート テストを行うことができるようになります。このチェック ボックスをチェックしないと、リモート テストを実行することはできません。また、Silk Test を起動するたびに、Silk Test 実行可能ファイルをブロックするか許可するかを確認されます。

    重要: アプリケーションのリモート テストは、セキュリティ リスクとなる可能性があります。リモート テストは信頼できる開発環境で、かつ制御可能なネットワーク上でのみ実行されるべきです。リモート テストの実行は、ユーザー自身の責任において行ってください。
14. **次へ** をクリックします。
15. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。
    - 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
    - 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

    ヒント: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp で、e:¥SilkTest にインストールする場合、E ドライブにはインストールに十分な領域があっても、D ドライブが不十分だとエラーの原因になります。

    ステータス バーにより、インストール処理の状況がわかります。
16. 省略可能：**使用状況データの収集** ページで、次のいずれかをクリックします。
    - 使用状況データの収集を Micro Focus に許可する場合は、**はい、参加します** をクリックします。
    - Micro Focus が使用状況データを収集できないようにするには、**いいえ、参加しません** をクリックします。

17 **次へ** をクリックします。

18 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **評価版** Silk Test の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- **ライセンス版** –ライセンスが必要な Silk Test の無制限版をインストールします。

19 **Silk Meter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスが開きます。このユーティリティは、ローカル システム内に、Silk Meter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つかれば、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスがデフォルトの設定と共に表示されます。次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する

ライセンス サーバー ホスト テキスト ボックスに、Silk Meter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。デフォルト **ポート番号** の 5461 は、ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではない限り、変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で Silk Meter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。



注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前で指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する

Silk Test をスタンドアロンで実行します。**選択** をクリックして、ライセンス ファイルを選択します。



注: ライセンス ファイルは後からでもインポートできます。このステップをスキップする場合には、**閉じる** をクリックします。**Silk Standalone License Installer** は、Silk Test と共に **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** の下にインストールされます。

20 **次へ** をクリックします。



便利な方法: リモート Silk Meter ライセンス サーバーを使用して Silk Test を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行** を選択して ping localhost または ping <license server name> を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

21 **完了** をクリックします。

Silk4J のインストール

Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。Silk4J は、標準インストールまたは完全インストールを選択すると、自動的にインストールされます。基本インストールまたはカスタム インストールを選択した場合は、あとで Silk4J をインストールできます。Silk4J をインストールすると、Open Agent もインストールされます。Silk4J を実行するには、Open Agent が必要です。

1. Silk Test の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

Silk Test の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行...** を選択し、<CD ドライブ>:¥setup.exe を入力して、Silk Test セットアップ プログラムを手動で開始します。

注: Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallAnywhere ウィザードが開きます。

2. 前のバージョンの Silk Test がインストールされている場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。

   以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。 **使用許諾契約** が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。

   Silk Test のインストール時に使用許諾契約の条項に同意することにより、Silk Test の使用方法に関する情報と、Silk Test をインストールしたコンピューターに関する情報の収集を Micro Focus に許可したことになります。Micro Focus は、名前や住所などの個人の特定を可能にする情報の収集や、スクリプトやパスワードなどのデータ ファイルの収集は行いません。Silk Test クライアントの **バージョン情報** ダイアログから、このデータ収集設定をいつでも無効にできます。詳細については、クライアントのヘルプを参照してください。
5. **次へ** をクリックします。 **インストール セットの選択** ページが開きます。
6. ドロップダウン リストから、**カスタム** を選択して **Silk4J** チェック ボックスをオンにします。 Silk4J、Silk Test Recorder、および Open Agent がインストールされます。
7. **次へ** をクリックします。 **インストール フォルダの選択** ページが開きます。
8. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。
   a) **選択** をクリックします。 **フォルダの参照** ダイアログ ボックスが開きます。
   b) Silk Test をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

   場所がテキスト フィールドに表示されます。
9. **次へ** をクリックします。 **Silk4J へようこそ** ページが開きます。
10. Silk4J をインストールするときに新しい Eclipse 環境をインストールするかどうかを指定します。
    a) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

    - **Eclipse (200MB) をダウンロードして Silk4J をインストール**: Silk4J および Eclipse 環境をインストールするには、このオプションをクリックします。
    - **既存の Eclipse 環境 (バージョン 3.7 以降) を使用して Silk4J をインストール** : Silk4J で既存の Eclipse 環境を使用するには、このオプションをクリックします。**参照** をクリックして、使用する Eclipse 環境に移動します。
    - **Silk4J を手動でインストール** : Silk4J を Eclipse 環境に手動でインストールするには、このオプションをクリックします。dropins という名前のフォルダが Silk Test インストール ディレクトリに作成されます。このフォルダを有効な Eclipse ディレクトリにコピーして Silk4J を使用します。

    b) **次へ** をクリックします。

    インストールが完了したら、(Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **クライアント** > **Silk4J**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk4J** をクリックして Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンライン ヘルプを参照してください。
11. Mac 上の Apple Safari や iOS デバイス上のモバイル ネイティブ アプリケーションをテストするには、**Silk Test macOS セットアップのダウンロード** チェック ボックスをチェックします。

注: Silk Test のインストールが完了した後で、Max 上で OS X セットアップをインストールする必要があります。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。

12 **次へ** をクリックします。 **ファイアウォールの例外** ページが開きます。

13 すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を作成するには、**Windows ファイアウォール例外の追加** チェック ボックスをチェックします。

注: このチェック ボックスをチェックすることで、Silk Test を使用してリモート テストを行うことができるようになります。このチェック ボックスをチェックしないと、リモート テストを実行することはできません。また、Silk Test を起動するたびに、Silk Test 実行可能ファイルをブロックするか許可するかを確認されます。

重要: アプリケーションのリモート テストは、セキュリティ リスクとなる可能性があります。リモート テストは信頼できる開発環境で、かつ制御可能なネットワーク上でのみ実行されるべきです。リモート テストの実行は、ユーザー自身の責任において行ってください。

14 **次へ** をクリックします。

15 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

ヒント: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp で、e:¥SilkTest にインストールする場合、E ドライブにはインストールに十分な領域があっても、D ドライブが不十分だとエラーの原因になります。

ステータス バーにより、インストール処理の状況がわかります。

16 省略可能：**使用状況データの収集** ページで、次のいずれかをクリックします。

- 使用状況データの収集を Micro Focus に許可する場合は、**はい、参加します** をクリックします。
- Micro Focus が使用状況データを収集できないようにするには、**いいえ、参加しません** をクリックします。

17 **次へ** をクリックします。

18 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **評価版** Silk Test の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- **完全版**： ライセンスが必要な Silk Test の無制限版をインストールします。

19 **Silk Meter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスが開きます。このユーティリティは、ローカル システム内に、Silk Meter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つかれば、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスがデフォルトの設定と共に表示されます。次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する	**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、Silk Meter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。デフォルト **ポート番号** の 5461 は、ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではない限り、変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で Silk Meter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。 **注:** 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前で指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the

hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する Silk Test をスタンドアロンで実行します。**選択** をクリックして、ライセンス ファイルを選択します。

注: ライセンス ファイルは後からでもインポートできます。このステップをスキップする場合には、**閉じる** をクリックします。**Silk Standalone License Installer** は、Silk Test と共に **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** の下にインストールされます。

20 **次へ** をクリックします。

便利な方法: リモート Silk Meter ライセンス サーバーを使用して Silk Test を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行** を選択して ping localhost または ping <license server name> を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

21 **完了** をクリックします。

22 Silk4J のインストール実行時に Eclipse が実行されていた場合は、Eclipse を再起動します。

インストールが完了したら、(Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **クライアント** > **Silk4J**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk4J** をクリックして Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンライン ヘルプを参照してください。

Silk4J Eclipse プラグインの手動インストール

Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。 Silk Test インストール ウィザードを使用して Silk Test をインストールするときに、Silk4J Eclipse プラグインをインストールできます。

この手順は、以下の場合に使用します。

- Silk4J プラグインのインストール後に Eclipse のバージョンをアップグレードする場合。
- インストール中に **Silk4J を手動でインストール** オプションを選択した場合。
- Silk Test をインストールしたときに Silk4J Eclipse プラグインをインストールしておらず、手動でインストールする場合。

1. インストール中に **Silk4J を手動でインストール** オプションを選択した場合、Silk Test インストール ディレクトリで dropins フォルダを検索します。

   デフォルトの場所は、次のようになります： C:¥Program Files¥Silk¥Silk Test¥dropins
2. Silk4J.link ファイルをコピーして Eclipse dropins フォルダに貼り付けます。

   たとえば、Eclipse 環境が C:¥Eclipse にインストールされている場合は、Silk4J.link ファイルを C:¥Eclipse¥dropins にコピーします。
3. Silk4J のインストール実行時に Eclipse が実行されていた場合は、Eclipse を再起動します。

   インストールが完了したら、(Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **クライアント** > **Silk4J**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk4J** をクリックして Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンライン ヘルプを参照してください。

   ヒント: Silk4J の起動で問題が発生した場合は、パラメータ -clean を使用して Eclipse を起動してみます。

Rumba の有効化と無効化

Rumba は、世界トップクラスの Windows デスクトップ端末エミュレーション ソリューションです。Rumba は、メインフレーム、ミッドレンジ、UNIX、Linux、および HP サーバーとの接続ソリューションを提供します。

サポートの有効化

Rumba スクリプトを記録および再生する前に、サポートを有効にする必要があります。

1. Rumba デスクトップ クライアント ソフトウェア バージョン 8.1 以降をインストールします。
2. (Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **Rumba プラグイン** > **Silk Test Rumba プラグインの有効化**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk Test Rumba プラグインの有効化** をクリックします。

サポートの無効化

(Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **Rumba プラグイン** > **Silk Test Rumba プラグインの無効化**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk Test Rumba プラグインの無効化** をクリックします。

Silk4NET のインストール

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテスト スクリプトを作成できます。Silk4NET は、標準インストールまたは完全インストールを選択すると、自動的にインストールされます。基本インストールまたはカスタム インストールを選択した場合は、あとで Silk4NET をインストールできます。Silk4NET をインストールすると、Open Agent もインストールされます。

1. VB.NET と C# 開発用の Visual Studio コンポーネントが、Silk4NET を使用する Visual Studio のインストールで利用可能であることを確認してください。
2. Silk Test の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

   Silk Test の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行...** を選択し、<CD ドライブ>:¥setup.exe を入力して、Silk Test セットアップ プログラムを手動で開始します。

   注: Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

   InstallAnywhere ウィザードが開きます。
3. 前のバージョンの Silk Test がインストールされている場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。

   以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
4. **次へ** をクリックします。 **使用許諾契約** が開きます。
5. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。

   Silk Test のインストール時に使用許諾契約の条項に同意することにより、Silk Test の使用方法に関する情報と、Silk Test をインストールしたコンピューターに関する情報の収集を Micro Focus に許可したことになります。Micro Focus は、名前や住所などの個人の特定を可能にする情報の収集や、スクリプトやパスワードなどのデータ ファイルの収集は行いません。Silk Test クライアントの **バージョン情報** ダイアログから、このデータ収集設定をいつでも無効にできます。詳細については、クライアントのヘルプを参照してください。

6. **次へ** をクリックします。 **インストール セットの選択** ページが開きます。
7. ドロップダウン リストから、**カスタム** を選択して Silk4NET チェック ボックスをオンにします。 Silk4NET、Silk Test Recorder、および Open Agent がインストールされます。
8. 既存の Visual Studio 環境で使用するように Silk4NET をインストールするかどうかを指定します。

   Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテスト スクリプトを作成できます。

   注: VB.NET と C# 開発用の Visual Studio コンポーネントが、Silk4NET を使用する Visual Studio のインストールで利用可能であることを確認してください。

   a) 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

   - **既存の Visual Studio 2012 以降の環境を使用して Silk4NET をインストール**： 既存の Visual Studio 2012 以降の環境を使用するには、このオプションをクリックします。
   - **Silk4NET を手動でインストール**： Silk4NET のインストールをあとで完了するには、このオプションをクリックします。Visual Studio 2012 以降がマシンにインストールされていない場合は、このオプションを選択する必要があります。詳細については、「*Silk4NET Visual Studio* プラグインの手動インストール」を参照してください。

   b) **次へ** をクリックします。

   Visual Studio を起動すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。
9. Silk Test のショートカット アイコンをデスクトップに追加するには、**デスクトップ ショートカットの作成** チェック ボックスをチェックします。
10. **次へ** をクリックします。 **インストール フォルダの選択** ページが開きます。
11. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。

    a) **選択** をクリックします。 **フォルダの参照** ダイアログ ボックスが開きます。

    b) Silk Test をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

    場所がテキスト フィールドに表示されます。
12. **次へ** をクリックします。
13. Mac 上の Apple Safari や iOS デバイス上のモバイル ネイティブ アプリケーションをテストするには、**Silk Test macOS セットアップのダウンロード** チェック ボックスをチェックします。

    注: Silk Test のインストールが完了した後で、Max 上で OS X セットアップをインストールする必要があります。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。
14. **次へ** をクリックします。 **ファイアウォールの例外** ページが開きます。
15. すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を作成するには、**Windows ファイアウォール例外の追加** チェック ボックスをチェックします。

    注: このチェック ボックスをチェックすることで、Silk Test を使用してリモート テストを行うことができるようになります。このチェック ボックスをチェックしないと、リモート テストを実行することはできません。また、Silk Test を起動するたびに、Silk Test 実行可能ファイルをブロックするか許可するかを確認されます。

    重要: アプリケーションのリモート テストは、セキュリティ リスクとなる可能性があります。リモート テストは信頼できる開発環境で、かつ制御可能なネットワーク上でのみ実行されるべきです。リモート テストの実行は、ユーザー自身の責任において行ってください。
16. **次へ** をクリックします。
17. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

    - 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
    - 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

ヒント: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp で、e:¥SilkTest にインストールする場合、E ドライブにはインストールに十分な領域があっても、D ドライブが不十分だとエラーの原因になります。

ステータス バーにより、インストール処理の状況がわかります。

18 省略可能：**使用状況データの収集** ページで、次のいずれかをクリックします。

- 使用状況データの収集を Micro Focus に許可する場合は、**はい、参加します** をクリックします。
- Micro Focus が使用状況データを収集できないようにするには、**いいえ、参加しません** をクリックします。

19 **次へ** をクリックします。

20 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **評価版** Silk Test の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- **完全版**： ライセンスが必要な Silk Test の無制限版をインストールします。

21 **Silk Meter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスが開きます。このユーティリティは、ローカル システム内に、Silk Meter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つかれば、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスがデフォルトの設定と共に表示されます。次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する

ライセンス サーバー ホスト テキスト ボックスに、Silk Meter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。デフォルト **ポート番号** の 5461 は、ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではない限り、変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で Silk Meter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前で指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する

Silk Test をスタンドアロンで実行します。**選択** をクリックして、ライセンス ファイルを選択します。

注: ライセンス ファイルは後からでもインポートできます。このステップをスキップする場合には、**閉じる** をクリックします。**Silk Standalone License Installer** は、Silk Test と共に **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** の下にインストールされます。

22 **次へ** をクリックします。

便利な方法: リモート Silk Meter ライセンス サーバーを使用して Silk Test を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行** を選択して ping localhost または ping <license server name> を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

23 **完了** をクリックします。

24 Silk4NET のインストール実行時に Visual Studio が実行されていた場合は、Visual Studio を再起動します。

インストールが完了すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。

Silk4NET Visual Studio プラグインの手動インストール

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 Visual Basic または C# のテスト スクリプトを作成できます。

Silk Test インストール ウィザードを使用して Silk Test をインストールするときに、Silk4NET Visual Studio プラグインをインストールできます。

この手順は、以下の場合に使用します。

- Silk4NET プラグインのインストール後に Visual Studio のバージョンをアップグレードする場合。
- インストール中に **Silk4NET を手動でインストール** オプションを選択した場合。

1. VB.NET と C# 開発用の Visual Studio コンポーネントが、Silk4NET を使用する Visual Studio のインストールで利用可能であることを確認してください。
2. <Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥Silk4NET フォルダにある MicroFocus.SilkTest.Silk4NET.vsix を実行します。

   デフォルトの場所は、次のようになります： C:¥Program Files¥Silk¥Silk Test¥ng¥Silk4NET

   注: インストール中に次のメッセージが表示された場合、メッセージは無視して続行してください：この拡張機能には無効なデジタル署名が含まれています。
3. Visual Studio のバージョンに従って、次のファイルをコピーします。
   - Visual Studio 2012 の場合、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2012.DataCollector.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥PrivateAssemblies¥DataCollectors¥ フォルダにコピーします。さらに、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2012.UnitTestingExtension.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥CommonExtensions¥Microsoft¥TestWindow¥Extensions¥ フォルダにコピーします。
   - Visual Studio 2013 の場合、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2013.DataCollector.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥PrivateAssemblies¥DataCollectors¥ フォルダにコピーします。さらに、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2013.UnitTestingExtension.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥CommonExtensions¥Microsoft¥TestWindow¥Extensions¥ フォルダにコピーします。
   - Visual Studio 2015 の場合、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2015.DataCollector.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥PrivateAssemblies¥DataCollectors¥ フォルダにコピーします。さらに、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2015.UnitTestingExtension.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥CommonExtensions¥Microsoft¥TestWindow¥Extensions¥ フォルダにコピーします。
   - Visual Studio 2017 の場合、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2017.DataCollector.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥PrivateAssemblies¥DataCollectors¥ フォルダにコピーします。さらに、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥NTF¥SilkTest.Ntf.VisualStudio2017.UnitTestingExtension.dll ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥CommonExtensions¥Microsoft¥TestWindow¥Extensions¥ フォルダにコピーします。最後に、<Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥Silk4NET

¥Silk4NET_2017.pkgdef ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥Extensions フォルダにコピーします。

4. Visual Studio で、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトが利用できることを確認します。

Silk4NET と Visual Studio 2017 Agent の統合

Visual Studio 2017 Agent だけをインストールしたマシン上で Silk4NET テストを実行するには、次の手順を実行します。

1. <Silk Test インストール ディレクトリ>¥ng¥Silk4NET¥Silk4NET_2017.pkgdef ファイルを Visual Studio インストール ディレクトリの ¥Common7¥IDE¥Extensions フォルダにコピーします。
2. ファイル privateregistry.bin が %localappdata%/ Microsoft¥VisualStudio¥15.0_<some ID> フォルダに存在する場合は、そのファイルを削除します。

次のテストを実行するときに、Visual Studio Agent が再構成され、Silk4NET を認識します。

Silk Test Classic のインストール

作業を開始する前に、Silk Test の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

Silk Test Classic は、完全インストールを選択すると、自動的にインストールされます。カスタム インストールを選択した場合は、従来の 4Test インターフェイスおよびツールのみを使用するために Silk Test Classic をインストールできます。Silk Test Classic をインストールすると、Silk Test Recorder、Silk Test Classic Agent、および Open Agent もインストールされます。Silk Test Recorder を使用すると、テストを記録できます。テストを手動でコーディングする必要はありません。Silk Test Classic では、Classic Agent または Open Agent を使用して、サポートされるテクノロジ ドメインに接続します。Open Agent は Silk Test Recorder 用に必要です。

注: ユーザー アクセス制御 (UAC) がシステムで有効になっている場合は、Silk Test Classic を Program Files フォルダ以外の別の場所にインストールすることをおすすめします。

1. Silk Test の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

   Silk Test の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行...** を選択し、<CD ドライブ>:¥setup.exe を入力して、Silk Test セットアップ プログラムを手動で開始します。

   注: Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

   InstallAnywhere ウィザードが開きます。
2. 前のバージョンの Silk Test がインストールされている場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。

   以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。**使用許諾契約** が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。

   Silk Test のインストール時に使用許諾契約の条項に同意することにより、Silk Test の使用方法に関する情報と、Silk Test をインストールしたコンピューターに関する情報の収集を Micro Focus に許可したことになります。Micro Focus は、名前や住所などの個人の特定を可能にする情報の収集や、スクリプトやパスワードなどのデータ ファイルの収集は行いません。Silk Test クライアントの **バージョン情報**

ダイアログから、このデータ収集設定をいつでも無効にできます。詳細については、クライアントのヘルプを参照してください。

5. **次へ** をクリックします。**インストール セットの選択** ページが開きます。
6. ドロップダウン リストから、**カスタム** を選択して **Silk Test Classic IDE** のチェック ボックスをオンにします。 Silk Test Classic をインストールすると、Silk Test Recorder、Silk Test Classic Agent、および Open Agent もインストールされます。
7. Silk Test のショートカット アイコンをデスクトップに追加するには、**デスクトップ ショートカットの作成** チェック ボックスをチェックします。
8. **次へ** をクリックします。**インストール フォルダの選択** ページが開きます。
9. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。
   a) **選択** をクリックします。 **フォルダの参照** ダイアログ ボックスが開きます。
   b) Silk Test をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

   注: Silk Test と Silk Test Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

   注: Silk Test は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。また、Silk Test を C:/Program Files にインストールとすることを Micro Focus では推奨しています。 他の場所にインストールした場合、Silk Test の一部の機能が正しく機能しない可能性があります。無効なインストール先を指定した場合、エラー メッセージが表示されます。

   場所がテキスト フィールドに表示されます。
10. **次へ** をクリックします。
11. Mac 上の Apple Safari や iOS デバイス上のモバイル ネイティブ アプリケーションをテストするには、**Silk Test macOS セットアップのダウンロード** チェック ボックスをチェックします。

    注: Silk Test のインストールが完了した後で、Max 上で OS X セットアップをインストールする必要があります。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。
12. **次へ** をクリックします。**ファイアウォールの例外** ページが開きます。
13. すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を作成するには、**Windows ファイアウォール例外の追加** チェック ボックスをチェックします。

    注: このチェック ボックスをチェックすることで、Silk Test を使用してリモート テストを行うことができるようになります。このチェック ボックスをチェックしないと、リモート テストを実行することはできません。また、Silk Test を起動するたびに、Silk Test 実行可能ファイルをブロックするか許可するかを確認されます。

    重要: アプリケーションのリモート テストは、セキュリティ リスクとなる可能性があります。リモート テストは信頼できる開発環境で、かつ制御可能なネットワーク上でのみ実行されるべきです。リモート テストの実行は、ユーザー自身の責任において行ってください。
14. **次へ** をクリックします。
15. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

    - 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
    - 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

    ヒント: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp で、e:¥SilkTest にインストールする場合、E ドライブにはインストールに十分な領域があっても、D ドライブが不十分だとエラーの原因になります。

    ステータス バーにより、インストール処理の状況がわかります。
16. 省略可能：**使用状況データの収集** ページで、次のいずれかをクリックします。

- 使用状況データの収集を Micro Focus に許可する場合は、**はい、参加します** をクリックします。
- Micro Focus が使用状況データを収集できないようにするには、**いいえ、参加しません** をクリックします。

17 **次へ** をクリックします。

18 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **評価版** Silk Test の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- **ライセンス版** –ライセンスが必要な Silk Test の無制限版をインストールします。

19 **Next** をクリックし、続行します。**Silk Test licensing** ダイアログ ボックスが開きます。

このダイアログ ボックスでは、Silk Meter ライセンス管理についての一般的な情報を提供しています。Silk Meter ライセンス管理の詳細については、**Open SilkMeter ReadMe** をクリックします。デフォルト ブラウザで Silk Meter ドキュメントが開きます。

注: ドキュメントがインストール ソース ディレクトリで利用できない場合は、**Open SilkMeter ReadMe** ボタンは無効です。これは一般に Silk Test Web パッケージをインストールするときに該当します。

コンピュータ ネットワーク上に Silk Meter ライセンス サーバーが既にインストールされている場合、または、ネットワーク上のどのコンピュータが Silk Meter ライセンス サーバーになるかわかっている場合、あるいは、Silk Meter をスタンドアロン モードで実行する場合には、**OK** をクリックして、**Select Silk Meter License Server** ダイアログ ボックスを開くことができます。

Silk Meter ライセンス サーバーを指定しないでインストールを続行する場合には、**Cancel** をクリックします。

20 **次へ** をクリックします。

便利な方法: リモート Silk Meter ライセンス サーバーを使用して Silk Test を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行** を選択して ping localhost または ping <license server name> を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

21 インストールを完了するためにシステムを再起動するかどうかを指定し、**完了** をクリックします。

注目: Silk Test Classic を正しく機能させるには、コンピュータを再起動する必要があります。

Silk Test 実行環境または Silk Test エージェントのインストール

作業を開始する前に、Silk Test の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

Silk Test エージェントまたは Silk Test 実行環境をインストールするには :

1. Silk Test の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

   Silk Test の CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行...** を選択し、<CD ドライブ>:¥setup.exe を入力して、Silk Test セットアップ プログラムを手動で開始します。

   注: Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。Silk Test を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

   InstallAnywhere ウィザードが開きます。
2. 前のバージョンの Silk Test がインストールされている場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。

以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。

3. **次へ** をクリックします。**使用許諾契約** が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
5. **次へ** をクリックします。**インストール セットの選択** ページが開きます。
6. ドロップダウン リストから **エージェントと実行環境のみ** を選択し、インストールするコンポーネントのチェック ボックスをオンにします。
   - Silk4J、Silk4NET、および Silk Test Classic のほとんどのテクノロジ タイプでのテストで分散テストを実行するには、**Silk Test Open Agent** チェック ボックスをオンにします。
   - 従来の 4Test 環境で分散テストを実行するには、**Silk Test Classic Agent** チェック ボックスをオンにします。Classic Agent には Silk Test Unix Agent が含まれています。

     注: Classic Agent は、Silk Test Classic でのみ利用できます。Classic Agent インストールには Silk Test Windows および.NET 拡張キットが含まれています。
   - テストのセットを実行し、結果を表示するには、**Silk Test Classic Runtime** チェック ボックスをオンにします。

   注: Open Agent をインストールするだけでは、コマンド ラインや Silk Central から Silk Test Workbench スクリプトを実行することはできません。Silk Test Workbench 全体をインストールする必要があります。
7. **次へ** をクリックします。**インストール フォルダの選択** ページが開きます。
8. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します。
   a) **選択** をクリックします。 **フォルダの参照** ダイアログ ボックスが開きます。
   b) Silk Test をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

   注: Silk Test と Silk Test Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

   注: Silk Test は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。また、Silk Test を C:/Program Files にインストールとすることを Micro Focus では推奨しています。 他の場所にインストールした場合、Silk Test の一部の機能が正しく機能しない可能性があります。無効なインストール先を指定した場合、エラー メッセージが表示されます。
9. **次へ** をクリックします。
10. Mac 上の Apple Safari や iOS デバイス上のモバイル ネイティブ アプリケーションをテストするには、**Silk Test macOS セットアップのダウンロード** チェック ボックスをチェックします。

    注: Silk Test のインストールが完了した後で、Max 上で OS X セットアップをインストールする必要があります。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。
11. **次へ** をクリックします。**ファイアウォールの例外** ページが開きます。
12. すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を作成するには、**Windows ファイアウォール例外の追加** チェック ボックスをチェックします。

    注: このチェック ボックスをチェックすることで、Silk Test を使用してリモート テストを行うことができるようになります。このチェック ボックスをチェックしないと、リモート テストを実行することはできません。また、Silk Test を起動するたびに、Silk Test 実行可能ファイルをブロックするか許可するかを確認されます。

    重要: アプリケーションのリモート テストは、セキュリティ リスクとなる可能性があります。リモート テストは信頼できる開発環境で、かつ制御可能なネットワーク上でのみ実行されるべきです。リモート テストの実行は、ユーザー自身の責任において行ってください。
13. **次へ** をクリックします。
14. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います。

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。



ヒント: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp で、e:¥SilkTest にインストールする場合、E ドライブにはインストールに十分な領域があっても、D ドライブが不十分だとエラーの原因になります。

ステータス バーにより、インストール処理の状況がわかります。

15 省略可能：**使用状況データの収集** ページで、次のいずれかをクリックします。

- 使用状況データの収集を Micro Focus に許可する場合は、**はい、参加します** をクリックします。
- Micro Focus が使用状況データを収集できないようにするには、**いいえ、参加しません** をクリックします。

16 **次へ** をクリックします。

17 次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

- **評価版** Silk Test の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- **ライセンス版** –ライセンスが必要な Silk Test の無制限版をインストールします。

18 **Silk Meter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスが開きます。このユーティリティは、ローカル システム内に、Silk Meter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つかれば、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ダイアログ ボックスがデフォルトの設定と共に表示されます。次のオプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する

ライセンス サーバー ホスト テキスト ボックスに、Silk Meter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。デフォルト **ポート番号** の 5461 は、ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではない限り、変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で Silk Meter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。



注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前で指定すると、動作しない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する

Silk Test をスタンドアロンで実行します。**選択** をクリックして、ライセンス ファイルを選択します。



注: ライセンス ファイルは後からでもインポートできます。このステップをスキップする場合には、**閉じる** をクリックします。**Silk Standalone License Installer** は、Silk Test と共に **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** の下にインストールされます。

19 **次へ** をクリックします。



便利な方法: リモート Silk Meter ライセンス サーバーを使用して Silk Test を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート** > **ファイル名を指定して実行** を選択して ping localhost または ping <license server name> を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

20. インストールを完了するためにシステムを再起動するかどうかを指定し、**完了** をクリックします。

注目: Silk Test Classic を正しく機能させるには、コンピュータを再起動する必要があります。

注: Silk Test エージェントのライセンスを購入し、Silk Test 自体を購入しない場合は、インストール後、エージェント、ドキュメント、および Silk Test Bitmap Tool だけが利用できます。

Classic Agent for Unix のインストール

Silk Test Agent ソフトウェアのインストール後、Silk Test Classic Agent for Unix を使用するには追加ステップが必要です。

1. Silk Test Classic Agent ソフトウェアをインストールしたコンピュータで、Silk Test Unix Agent TAR ファイルがあるディレクトリを見つけます。
   デフォルトでは、この場所は c:¥Program Files¥Silk¥Silk Test¥unix_agent です。
2. 使用している Unix マシンに適した TAR ファイルをコピーします。
   Silk Test には以下のファイルがあります。
   - linux21_sp3.tar.gz : Linux 2.1 用
   - linux30_sp3.tar.gz : Linux 3.0 用
   - solaris_sp3.tar.gz : Solaris 9 および 10 用
3. TAR ファイルを Unix マシン上に抽出します。tar xzf <filename>.tar.gz と入力します。
   <filename> は、使用している Unix のバージョンに適したファイル名です。
4. bin ディレクトリに移動し、シェルまたは C シェル スクリプトを実行します。
   たとえば、以下のように入力します。
   ```
   cd bin
   csh <filename>
   ```
5. Agent を起動します。

Silk Test のアンインストール

新しいバージョンの Silk Test をインストールするときに、既存のバージョンの Silk Test のアンインストールを求めるプロンプトがウィザードで表示されます。また、プログラム メニューから Silk Test をいつでもアンインストールできます。

1. (Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **Silk Test のアンインストール**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk Test のアンインストール** をクリックします。**InstallAnywhere** ウィザードにより、[Silk Test <バージョン> **をアンインストール**] ページが開きます。
2. **アンインストール** をクリックします。
   以下の項目とフォルダが削除されます。
   - Access データベースおよびサンプル
   - [AppDATA]/Silk/Silk Test の内容
     たとえば、Windows 7 では、このディレクトリは次の場所にあります : C:¥Users¥[username]¥AppData¥Roaming¥Silk¥Silk Test
   - [commonAppData]/Silk/Silk Test の内容
     たとえば、Windows 7 では、このディレクトリは次の場所にあります : C:¥ProgramData¥Silk Test
   - [commonAppData]/Silk/Silk Test Workbench の内容

たとえば、Windows 7 では、このディレクトリは次の場所にあります：C:¥ProgramData¥Silk Test Workbench

削除されなかったファイルがある場合は、それらのファイルのリストが表示されます。

3. **完了** をクリックします。

Silk Test のサイレント モード インストール

ユーザー主導の一般的なインストールでは、インストール プロセスの情報はダイアログ ボックスに応答するユーザーから取得されます。ただし、サイレント モード インストールでは、インストール プロセスの情報はプロパティ ファイルから取得されます。サイレント インストールは特に、LAN やインターネット上で、リモート インストール ツールを使用してソフトウェアを配布する場合に便利です。以下の種類のサイレント インストールを実行できます。

- 完全： Silk Test Workbench、Silk Test エージェント、Silk Test Recorder、Silk4J、Silk4NET、Silk Test Classic をインストールします。
- 標準： Silk Test Workbench、Silk Test Open Agent、Silk Test Recorder、Silk4J、Silk4NET をインストールします。
- 基本： Silk Test Workbench、Silk Test Open Agent をインストールします。
- エージェントと実行環境： Silk Test 実行環境、Silk Test エージェントをインストールします。

サイレント インストールのプロパティ ファイルの作成

インストール パッケージをサイレント モードで実行する前に、インストールの設定を含むプロパティ ファイルを作成する必要があります。

1. メモ帳などのテキスト エディタを開きます。
2. 以下の例をテキスト エディタに貼り付け、ファイルに名前を付け、.properties 拡張子を使用してファイルを保存します。

   たとえば、ファイルを SilentInstall.properties とすることができます。

```
# Silent Installation Execution Instructions:
################################
# Start the Install.exe (not Setup.exe) with the following arguments:
# -i silent -f [path to properties file][properties file]
# (You may use the direct or the relative path to the properties file)
#
# example: install.exe -i silent -f SilentInstall.properties
#
# SilkTest installation path - use "¥¥" to separate directories
# (default: [System_Programs_Folder]¥¥Silk¥¥Silk Test)
################################
# USER_INSTALL_DIR_CHOSEN=C:¥¥Program Files¥¥Silk¥¥Silk Test
#
# Select an install set:
# (default: complete)
################################
# basic - Basic (Workbench)
# standard - Standard (Workbench, Silk4J, Silk4NET)
# complete - Complete
# agent_runtime - Agent/Runtime Only
# NONE - Custom mode
# SELECTED_INSTALL_SET=complete
#
# Shortcut locations: enter the location(s) for icons.
# (allowed: Desktop, QuickLaunch)
```

```
# (default: no shortcuts)
################################
# SHORTCUT_LOCATIONS=Desktop,QuickLaunch
#
# Path to the existing Eclipse directory (containing eclipse.exe) into
# which Silk4J will be integrated
# (default: USER_INSTALL_DIR_CHOSEN)
################################
# ECLIPSE_CHOSEN_DIR=C:¥¥Eclipse
#
# Silk4NET installation option: if set to 1, Silk4NET will be integrated
# into an existing VS2010
# (default: 0)
################################
# USER_INPUT_SILK4NET_INTEGRATE=1
#
# Firewall exceptions:
# (default: no exceptions)
########################
# USER_INPUT_FIREWALL=Yes
#
# Create system restore point
# (default: 1)
################################
# CREATE_SYSTEM_RESTORE=0
#
# Allow Silk Test to collect usage data
# (default: 1)
########################################
# if set to 0, data collection will be disabled
# USER_INPUT_USAGE_DATA=1
#
# Licensing Mode (no default value)
################################
# Use to install an evaluation license
# USER_VERSION_EVAL=1
#
# Use to install a full license
# USER_VERSION_FULL=1
#
# Settings that specify the license server and port
# (no default values)
################################
# LICENSE_SERVER=localhost
# Port of license server
# LICENSE_PORT=5461
```

サイレント インストーラの設定

サイレント インストーラのプロパティを設定する前に、インストールの設定を含んだプロパティ ファイルを作成する必要があります。

注: プロパティ値を設定するには、プロパティ値の文字列からシャープ (#) 記号を削除してください。

1. テキスト エディタで、サイレント インストール用に作成したプロパティ ファイルを開きます。
2. SELECTED_INSTALL_SET プロパティで、完了するインストールの種類に合った値を設定します。

次のいずれかを選択します。

```
# basic - Basic (Workbench)
# standard - Standard (Workbench, Silk4J, Silk4NET)
# complete - Complete
# agent_runtime - Agent/Runtime Only
# NONE - Custom mode
```

例：

- Silk Test の完全バージョンをインストールするには、次のように入力します。

  ```
  SELECTED_INSTALL_SET=complete
  ```

- Silk Test Classic をインストールするには、次のように入力します。

  ```
  SELECTED_INSTALL_SET=NONE
  CHOSEN_INSTALL_FEATURE_LIST=OA,CA,Partner
  ```

  注: カスタム モードを使用する場合は、CHOSEN_INSTALL_FEATURE_LIST を設定して、インストールするコンポーネントを指定できます。別のモードを使用する場合は、このオプションを設定しないでください。リストには以下のコンポーネントが含まれています。

コンポーネント	値
Open Agent	OA
Silk Test Workbench	VT
Classic Agent	CA
Silk Test Classic	Partner
Silk4J	Silk4J
Silk4NET	Silk4NET
Silk Test ランタイム	RunTime

3. ショートカット アイコンを追加するには、SHORTCUT_LOCATIONS プロパティで以下のオプションのいずれか、または両方を指定します。

   - **Desktop**：デスクトップにアイコンを追加します。
   - **QuickLaunch**：クイック起動ツールバーにアイコンを追加します。

   たとえば、デスクトップ アイコンとクイック起動アイコンの両方をインストールするには、以下のように入力します。

   ```
   SHORTCUT_LOCATIONS=Desktop,QuickLaunch
   ```

4. 既存の Eclipse 環境を Silk4J Java Testing Framework（JTF）と統合するには、ECLIPSE_CHOSEN_DIR プロパティで Eclipse ディレクトリの場所を指定します。
   たとえば、以下のように指定できます。

   ```
   ECLIPSE_CHOSEN_DIR=C:¥¥Eclipse
   ```

   C:¥¥Eclipse は Eclipse がインストールされているディレクトリです。

   注: ディレクトリ レベルは二重の ¥¥ で指定します。

5. 既存の Visual Studio 環境で使用するように Silk4NET をインストールするには、USER_INPUT_SILK4NET_INTEGRATE プロパティで以下のオプションのいずれかを指定します。

   - 0： Silk4NET を使用するようにセットアップしません。
   - 1： Silk4NET を使用するようにセットアップします。

   Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテスト スクリプトを作成できます。

注: VB.NET と C# 開発用の Visual Studio コンポーネントが、Silk4NET を使用する Visual Studio のインストールで利用可能であることを確認してください。

たとえば、以下のように指定できます。

```
USER_INPUT_SILK4NET_INTEGRATE=1
```

6. Classic Agent ブラウザ アプリケーションの言語を指定するには、USER_INPUT_BROWSER_LANGUAGE プロパティで以下の言語のいずれかを指定します。
   デフォルトでは、English が指定されます。
   - English
   - Simplified Chinese
   - French
   - German
   - Japanese

   たとえば、以下のように指定できます。

   ```
   USER_INPUT_BROWSER_LANGUAGE=English
   ```
7. Classic Agent のデフォルトのブラウザを指定するには、USER_INPUT_DEFAULT_BROWSER プロパティで以下の選択肢からいずれかを指定します。
   デフォルトでは、インストーラによってデフォルトのシステム ブラウザが使用されます（Silk Test でサポートされている場合）。
   - None： Classic Agent を使用してテストしない場合または Web アプリケーションをテストしない場合は、None を選択します。
   - Firefox
   - Internet Explorer

   たとえば、以下のように指定できます。

   ```
   USER_INPUT_DEFAULT_BROWSER=Firefox
   ```
8. Classic Agent の Internet Explorer のバージョンを指定するには、IE_VERSION プロパティで 6、7、または 8 を指定します。
   たとえば、以下のように指定できます。

   ```
   IE_VERSION=7
   ```
9. Classic Agent の Mozilla Firefox のバージョンを指定するには、FIREFOX_DOMEX_VERSION プロパティで 1_5 または 2_0 を指定します。
   たとえば、以下のように指定できます。

   ```
   FIREFOX_DOMEX_VERSION=2_0
   ```
10. インストールに、すべての Silk Test 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を含めるかどうかを指定します。
    デフォルトでは、ファイアウォール例外は設定されません。
    たとえば、Windows ファイアウォール例外を作成するには、以下のように指定します。

    ```
    USER_INPUT_FIREWALL=Yes
    ```
11. 使用状況データの収集を Micro Focus に許可するかどうかを指定します。
    - 使用状況の収集を許可する場合は、次のように指定します。

      ```
      USER_INPUT_USAGE_DATA=1
      ```
    - 使用状況の収集を許可しない場合は、次のように指定します。

      ```
      USER_INPUT_USAGE_DATA=0
      ```
12. インストールに評価用ライセンスが必要かフル ライセンスが必要かを指定します。
    - 45 日間試用できる評価用ライセンスを使用するには、以下のように入力します。

      ```
      USER_VERSION_EVAL=1
      ```

- フル ライセンスを使用するには、以下のように入力します。

  ```
  USER_VERSION_FULL=1
  ```

13. ライセンス サーバー名を指定するには、LICENSE_SERVER プロパティでサーバー名を指定します。

    この値はデフォルトでは設定されません。ローカル マシンを使用するには (ほとんどの場合)、localhost を入力します。

14. ライセンス サーバー ポートを指定するには、LICENSE_PORT セクションを見つけます。

    この値はデフォルトでは設定されません。事前に定義されているポートを使用するには、5461 を入力します。

15. ファイルを保存します。

サイレント インストール コマンドを実行して、インストールを起動します。

Web インストーラを使用したサイレント モードでのインストール

インストール パッケージをサイレント モードで実行する前に、以下を実行する必要があります。

- インストールの設定を含むプロパティ ファイルを作成します。
- Windows インストーラ バージョン 4.5 をホスト マシンにインストールします。

  インストール ウィザードを使用する場合、Windows インストーラ バージョン 4.5 は自動的にインストールされます。 サイレント モードを使用する場合、このコンポーネントがまだマシン上になければ手動でインストールする必要があります。

注意: 以前のバージョンの Silk Test をアンインストールしてから続行してください。 以前のバージョンの Silk Test がコンピュータ上にある場合、Silk Test は通知なしで既存のファイルを上書きします。 複数のバージョンの Silk Test を同じマシンにインストールしないでください。

ユーザーによる操作を行わずに、Web インストーラを使用して Silk Test をインストールするには、以下を実行します。

1. ハード ドライブ上のインストール パッケージの場所に移動します。
2. サイレント インストールを実行するには、DOS シェルやバッチ ファイルから以下のコマンドを入力します。

   ```
   SilkTest<Version>.exe -i silent -f [path to properties file]¥[properties file]
   ```

   <*Version*> は Silk Test のバージョンおよびビルド番号です。たとえば、SilkTest14.0_6393.exe です。

   注: プロパティー ファイルは、拡張子が .properties のテキスト ファイルです。 任意のファイル名を選択できます。

   たとえば、サイレント インストール用のプロパティー ファイルが SilkTest<Version>.exe と同じディレクトリに置かれている場合、

   ```
   SilkTest<Version>.exe -i silent -f SilentInstall.properties
   ```

   のように指定できます。SilkTest<Version>.exe がサイレント インストール用のプロパティー ファイルと同じディレクトリに置かれていない場合、そのプロパティー ファイルの場所への絶対パスを指定します。 例：

   ```
   SilkTest<Version>.exe -i silent -f C:¥temp¥SilentInstall.properties
   ```

Silk Meter はライセンスが必要なツールです。サイレント インストーラを実行するときに Silk Meter サーバーの検出は「スキップ」されます。 ライセンス サーバーをまだ構成していない場合、サイレント インストーラで Silk Test をインストールしたあとにライセンス サーバーを構成することが必要となる場合があります。

インストール CD を使用したサイレント モードでのインストール

インストール パッケージをサイレント モードで実行する前に、以下を実行する必要があります。

- インストールの設定を含むプロパティ ファイルを作成します。
- Windows インストーラ バージョン 4.5 をホスト マシンにインストールします。

  インストール ウィザードを使用する場合、Windows インストーラ バージョン 4.5 は自動的にインストールされます。 サイレント モードを使用する場合、このコンポーネントがまだマシン上になければ手動でインストールする必要があります。

注意: 以前のバージョンの Silk Test をアンインストールしてから続行してください。 以前のバージョンの Silk Test がコンピュータ上にある場合、Silk Test は通知なしで既存のファイルを上書きします。 複数のバージョンの Silk Test を同じマシンにインストールしないでください。

ユーザーによる操作を行わずにインストール CD から Silk Test をインストールするには、以下を実行します。

1. Silk Test インストール CD の内容を、ハード ドライブの空のディレクトリにコピーします。
2. サイレント インストールを実行するには、DOS シェルやバッチ ファイルから以下のコマンドを入力します。

   ```
   SilkTest<Version>.exe -i silent -f [path to properties file]¥[properties file]
   ```

   <*Version*> は Silk Test のバージョンおよびビルド番号です。たとえば、SilkTest14.0_6393.exe です。

   注: プロパティー ファイルは、拡張子が .properties のテキスト ファイルです。 任意のファイル名を選択できます。

   たとえば、サイレント インストール用のプロパティー ファイルが SilkTest<Version>.exe と同じディレクトリに置かれている場合、

   ```
   SilkTest<Version>.exe -i silent -f SilentInstall.properties
   ```

   のように指定できます。SilkTest<Version>.exe がサイレント インストール用のプロパティー ファイルと同じディレクトリに置かれていない場合、そのプロパティー ファイルの場所への絶対パスを指定します。 例：

   ```
   SilkTest<Version>.exe -i silent -f C:¥temp¥SilentInstall.properties
   ```

Silk Meter はライセンスが必要なツールです。サイレント インストーラを実行するときに Silk Meter サーバーの検出は「スキップ」されます。 ライセンス サーバーをまだ構成していない場合、サイレント インストーラで Silk Test をインストールしたあとにライセンス サーバーを構成することが必要となる場合があります。

サイレント インストーラの成功の確認

サイレント インストーラを実行する場合、メッセージや Silk Test のダイアログ ボックスは表示されません。 インストールが成功したかどうかを知るのは困難です。 ただし、インストールのステータスが含まれている Silk Test_<version>_InstallLog.log ファイルを確認できます。 デフォルトでは、Silk Test_<version>_InstallLog.log ファイルは Silk Test インストール ディレクトリ内に生成されます。 ログ ファイルを確認してから、他のユーザーがサイレント インストーラを使用できるようにすることをお勧めします。

注: 以前のバージョンの Silk Test (Silk Test 2009 など) がコンピュータで検出された場合、Silk Test はインストールを続行し、ログ ファイルにエントリは作成されません。 複数のバージョンの Silk Test を同じマシンにインストールしないでください。

1. Silk Test_<version>_InstallLog.log ファイルを見つけて、テキスト エディタで開きます。
2. サイレント インストーラが成功したかどうかを判別するには、セットアップで実行された各操作のステータス メッセージを確認します。

   インストール ログには、インストーラによって実行された各操作について SUCCESSFUL、WARNING、または ERROR が記録されます。 また、インストール ログには、成功、警告、致命的ではないエラー、またはエラーの数を集計した概要も含まれています。

   たとえば、ある操作は以下のように表示されます。

```
Install File: C:¥Program Files¥Silk¥Silk Test¥ng¥recorder¥plugins¥
                com.borland.silktest.recorder_11.1.0.4440¥plugin.xml
      Status: SUCCESSFUL
```

   概要は以下のように表示されます。

```
Summary
-------

Installation: Successful.

2497 Successes
0 Warnings
0 NonFatalErrors
0 FatalErrors
```

エラー コードの参照

インストール エラー コードを参照して、サイレント インストール中に発生したエラーを分析します。

1. インストールを開始して実行するバッチ ファイルを作成します。
   たとえば、以下のコードを使用して install.bat という名前のファイルを作成します。

```
@echo off
install.exe -I silent -f SilentInstall.properties
echo %errorlevel%
pause
```

2. インストールのコードを確認します。

   以下の表は、Code キー名の戻り値の一覧です。

表 1 : インストーラの終了コード

コード	説明
0	成功 : インストールは警告やエラーなしで正常に完了しました。
1	インストールは正常に完了しましたが、インストール シーケンスの 1 つまたは複数の操作で警告または致命的ではないエラーが発生しました。
-1	インストール シーケンスの 1 つまたは複数の操作で致命的なエラーが発生しました。
1000	インストールはユーザーによって取り消されました。
1001	インストールに無効なコマンド ライン オプションが含まれています。
2000	未処理のエラー。
2001	インストールで認証チェックに失敗しました。期限切れのバージョンを示している場合があります。
2002	インストールでルール チェックに失敗しました。インストーラ自体に設定されたルールが失敗しました。
2003	サイレント モードでの依存関係が解決されないため、インストーラは終了しました。

コード	説明
2004	インストール操作の実行中に十分なディスク領域が検出されなかったため、インストールに失敗しました。
2005	Windows 64 ビット システム上にインストールしようとしたが、インストールに Windows 64 ビット システムのサポートが含まれていなかったため、インストールに失敗しました。
2006	このインストーラではサポートされていない UI モードで起動されたため、インストールに失敗しました。
3000	起動ツールに固有の未処理のエラー。
3001	lax.main.class プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3002	lax.main.method プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3003	lax.main.method プロパティに指定されたメソッドにインストールからアクセスできませんでした。
3004	lax.main.method プロパティによって発生した例外エラーが原因で、インストールに失敗しました。
3005	lax.application.name プロパティに値が割り当てられなかったため、インストールに失敗しました。
3006	lax.nl.java.launcher.main.class プロパティに割り当てられた値にインストールからアクセスできませんでした。
3007	lax.nl.java.launcher.main.class プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3008	lax.nl.java.launcher.main.method プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3009	lax.nl.launcher.java.main.method プロパティに指定されたメソッドにインストールからアクセスできませんでした。
4000	java.home システム プロパティで指定されたディレクトリで Java 実行可能ファイルが見つかりませんでした。
4001	インストーラの jar へのパスが正しくないため、再起動ツールが誤って起動しました。

サイレント モードでのアンインストール

ユーザーの操作なしで Silk Test をアンインストールする場合は、サイレント モードでアンインストールします。

注: 製品をインストールした方法にかかわらず、サイレント モードを使用して Silk Test をアンインストールできます。ただし、Silk Test をサイレント モードでインストールすると、アンインストールもサイレント モードで実行されます。

1. Uninstall_ Silk Test <バージョン> フォルダを見つけます。

   Uninstall Silk Test <バージョン>.exe がこのフォルダ内にあります。
2. サイレント モードのアンインストール手順を実行するには、DOS シェルやバッチ ファイルから以下のコマンドのいずれかを入力します。

   - Silk Test をサイレント モードでインストールした場合は、以下のコマンドを入力します。

     ```
     <Silk Test Install Directory>¥Silk¥Silk Test¥Uninstall_Silk Test 2011¥Uninstall Silk <version>.exe
     ```
   - Silk Test をサイレント モードでインストールしなかった場合は、以下のコマンドを入力します。

     ```
     <Silk Test Install Directory>¥Silk¥Silk Test¥Uninstall_Silk Test <version>¥Uninstall Silk Test <version>.exe -i silent
     ```

たとえば、Silk Test をサイレント モードでインストールしなかった場合、以下のようにコマンドを入力します。

```
C:¥Program Files¥Silk¥Silk Test¥Uninstall_Silk Test <version>¥Uninstall Silk Test <version>.exe -i silent
```

Mac 上の Apple Safari を使用したテストにおける前提条件

Mac 上の Apple Safari を使用してテストを行う前に、次の前提条件を満たしていることを確認してください。

- Mac がリモート ロケーションとして Silk Test がインストールされている Windows マシンに接続されている。
- Apple Safari 9 でテストする場合、 Apple Safari 用の WebDriver 拡張である SafariDriver が Mac 上にインストールされている（SafariDriver は従来のクライアント/サーバーの関係を逆転し、WebSocket を使用して WebDriver クライアントと通信します）。Apple Safari 10.1 を使用する場合、Safari はドライバーの実装を組み込みで備えています。
- Java JDK が Mac 上にインストールされている。
- Information Service が Mac 上にインストールされている。Information Service に必要なファイルを取得するには、Silk Test インストーラを使用します。詳細については、「*Silk Test Information Service を Mac にインストールする*」を参照してください。
- Apple Safari 上でテストを実行するには、Information Service をインストールしたユーザーが Mac にログインしている必要があります。

  ヒント: Micro Focus では、起動時に正しいユーザーで Mac に自動的にログインするように設定することを推奨します。詳細については、「起動時に自動的にログインするように *Mac* を設定する」を参照してください。
- Mac 上の Apple Safari に対して無人テストを実行する場合は、**システム環境設定** の **省エネルギー** ペインで、次の設定を行います。
  - **ディスプレイをオフにするまでの時間** を **しない** に設定します。
  - **ディスプレイがオフのときにコンピュータを自動でスリープさせない** チェック ボックスをオンにします。

  注: これらの設定は、**Silk Test Configuration Assistant** を使用すると簡単に行えます。
- Mac 上の Apple Safari に対して無人テストを実行するには、スクリーン セーバーを無効にします。

  1. **システム環境設定** > **デスクトップとスクリーンセーバ** を開きます。
  2. **スクリーンセーバ** タブをクリックします。
  3. **開始までの時間** を **開始しない** に設定します。

  注: これらの設定は、**Silk Test Configuration Assistant** を使用すると簡単に行えます。
- Apple Safari 10.1 を使用してテストする場合は、Safari 開発メニューを有効にします。**Safari** > **環境設定** を選択して、**詳細** をクリックし、**メニューバーに '開発' メニューを表示** をオンにします。
- Apple Safari 10.1 を使用してテストする場合は、リモート オートメーションを有効にします。Safari 開発メニューから、**リモート オートメーションを許可** をオンにします。
- 初めて Apple Safari 10.1 でテストを実行する際に、パスワード入力が必要になる場合があります。

Silk Test Information Service を Mac にインストールする

注: Information Service を Mac にインストールするには、Mac の管理者権限が必要です。

Mac 上の Apple Safari や、Mac に接続されている iOS や Android デバイス上のモバイル アプリケーションに対するテストを作成して実行するには、Mac に Silk Test Information Service (Information Service) をインストールしてから、**リモート ロケーション** ダイアログ ボックスを使用して、Silk Test をインストールした Windows マシンと Mac を接続する必要があります。

Information Service を Mac にインストールするには：

1. Java JDK が Mac 上にインストールされていることを確認します。
2. iOS デバイス上でモバイル アプリケーションをテストする場合は、Xcode が Mac 上にインストールされていることを確認します。
3. Information Service セットアップ ファイル（SilkTestInformationService<バージョン>-<ビルド番号>.pkg にアクセスします。
   - Silk Test のインストール時に Information Service セットアップ ファイルをダウンロードした場合は、Silk Test インストール ディレクトリ（C:¥Program Files (x86)¥Silk¥SilkTest など）の macOS フォルダを開きます。
   - Silk Test のインストール時に Information Service セットアップ ファイルをダウンロードしなかった場合は、*Micro Focus SupportLine* からセットアップ ファイルをダウンロードできます。
4. SilkTestInformationService<バージョン>-<ビルド番号>.pkg ファイルを Mac にコピーします。
5. SilkTestInformationService<バージョン>-<ビルド番号>.pkg を実行して、Information Service をインストールします。
6. インストール ウィザードの指示に従います。
7. パスワードを尋ねられた場合、現在サインインしている Mac ユーザーのパスワードを入力します。
8. Apple Safari が開き、SafariDriver を信頼するかどうかを尋ねるメッセージ ボックスが表示されたら、**信頼** をクリックします。

   注: リモート接続ではなく、直接 Mac にログインしている場合には、SafariDriver だけをインストールできます。

インストールを完了するために、現在の Mac ユーザーをログアウトします。Information Service が正しくインストールされていることを確認するには、Mac にログインし、画面の右上隅にある Silk Test アイコンをクリックして、利用可能なデバイスとブラウザーを表示させます。

ヒント: Silk Test アイコンが表示されない場合は、Mac を再起動してください。

次に実行すること

チュートリアルの実行

Silk Test をはじめて使用する場合は、Silk Test チュートリアルを実行することをお勧めします。チュートリアルは、(Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **ドキュメント** > **チュートリアル** から利用できます。

新しい Silk Test のバージョンへのアップグレード

新しい Silk Test のバージョンへアップグレードするには、次の操作を実行します。

1. カスタマーケアに Silk Test ライセンスのアップグレードを行うための問い合わせを行います。
2. Silk Meter Policy Administrator を使用して、アップグレードしたライセンスをライセンス サーバーにインポートします。

注: ライセンス サーバーをアップグレードする必要はありません。

Silk Test Workbench データベースの構成

Silk Test Workbench は、資産や設定を格納するためにデータベースを必要とします。デフォルトの Silk Test Workbench インストールでは、単一ユーザーによる運用用に Microsoft Access データベースが含まれています。本格的なエンタープライズでの運用には、Silk Test Workbench は Microsoft SQL Server および Oracle データベースをサポートします。Microsoft SQL Server または Oracle データベースを Silk Test Workbench で使用するには、中央サーバー マシン上にデータベースを作成して構成し、各クライアント マシン上で中央データベースを対象としたデータ ソース名 (DSN) を作成します。同じプロジェクトに複数のユーザーが関与する長期間にわたる自動化プロジェクトには、Microsoft SQL Server を使用することを Micro Focus は推奨しています。

サポートするデータベースについての情報は、『リリース ノート』を参照してください。

注: Silk Test Workbench の新しいバージョンをインストールしたときにデータベースが更新された場合、このデータベースを使用するすべての Silk Test Workbench ユーザーが、Silk Test Workbench の新しいバージョンにアップグレードする必要があります。

注: Silk Test では、64 ビットの DSN は使用できません。64 ビット マシンのデフォルトの DSN と ODBC ドライバは、C:¥Windows¥SysWow64 にある WOW64 ツールを使用して確認できます。

SQL Server データベースの構成

重要: データベースの設定と構成は、データベース管理者またはデータベースの管理に関する一般的な知識を持つ方が行うことをお勧めします。

Silk Test Workbench は、Silk Test Workbench で使用するために構成されたデータベースにテスト資産を格納してアクセスします。このセクションでは、以下の SQL Server データベースを Silk Test Workbench データベースとして使用する場合の構成方法について説明します。

新しい機能、サポートするプラットフォーム、テスト済みのバージョンについての情報は、『リリース ノート』を参照してください。

SQL Server の要件

Silk Test Workbench で使用するように SQL Server データベースを構成する場合は、以下の要件があります。

- Silk Test Workbench を実行するすべてのコンピュータは、SQL Server データベースが常駐するコンピュータにアクセスでき、新しいデータ ソースが構成されている必要があります。
- Silk Test Workbench は、データベースにアクセスするすべてのコンピュータにインストールされている必要があります。
- Silk Test Workbench データベース接続ファイルが、SQL Server データベースを指すように構成されている必要があります。
- SQL Server データベースとの接続に使用するユーザーは、データベースの VIEW_SERVER_STATE 権限を持つ必要があります。

注: Silk Test では、64 ビットの DSN は使用できません。64 ビット マシンのデフォルトの DSN と ODBC ドライバは、C:¥Windows¥SysWow64 にある WOW64 ツールを使用して確認できます。

Silk Test Workbench データベースの保守の詳細については、*Silk Test Workbench* のヘルプを参照してください。

SQL Server データベースの新規作成

このセクションでは、SQL Server Management Studio を使用して SQL Server データベースを作成する方法について説明します。 以下の手順以外に、Silk Test Workbench データベース メンテナンス ユーティリティを使用して、データベースに Silk Test Workbench テーブルを入力する必要もあります。

1. SQL Server Management Studio のオブジェクト エクスプローラで、**データベース** フォルダを右クリックして **新しいデータベース** を選択します。 **新しいデータベース** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **データベース名** テキスト ボックスにデータベースの名前を入力します。
3. **OK** をクリックします。

SQL Server 管理ユーザーの新規作成

これ以降の設定手順を実行するには、システム管理者権限を持つ SQL Server ユーザーが必要です。

このユーザーには次のアクセス許可が必要です。

- sysadmin または、db_ddladmin と db_owner の両方
- db_datareader
- db_datawriter

これらのアクセス許可は、*CREATE INDEX (Transact-SQL)* 文を使用してインデックスを作成するために必要になります。Silk Test Workbench データベースが作成された後は、データベースに接続するすべてのユーザーに対して、db_datareader と db_datawriter アクセス許可だけが必要になります。

1. システム管理者権限を持つユーザーを新規作成するには、以下のステップを実行します。
   a) SQL Server Management Studio のオブジェクト エクスプローラで、**セキュリティ** フォルダに移動して、展開します。
   b) **ログイン** フォルダを右クリックして、**新しいログイン** をクリックします。**ログイン - 新規作成** ダイアログ ボックスが開きます。
   c) **全般** ページを選択し、**ログイン名** テキスト ボックスにユーザー名を入力します。
   d) [SQL Server 認証] を選択し、パスワードを入力します。
   e) **既定のデータベース** リストから、デフォルト データベースを選択します。
   f) **サーバー ロール** ページを選択し、**サーバー ロール** リストで **sysadmin** のチェック ボックスをオンにします。
   g) **ユーザー マッピング** ページを選択します。
   h) **マップ** 列で、新しいログインでアクセスできるデータベースのチェック ボックスをオンにします。
   デフォルトで、**ユーザー** 列にログイン名が表示されています。この値はそのままにします。
   i) **データベース ロールのメンバシップ** リストで、**db_owner** のチェック ボックスをオンにします。
   j) **OK** をクリックします。
2. 新しいユーザーのスキーマを新規作成するには、以下のステップを実行します。
   a) **オブジェクト エクスプローラ** で、スキーマを作成するデータベースに移動します。
   b) データベース オブジェクト ツリーを展開して、**スキーマ** フォルダを表示します。
   スキーマ フォルダは、データベースの **セキュリティ** フォルダの子です。
   たとえば、スキーマをマスタ データベースに追加する場合は、**データベース** > **システム データベース** > **マスタ** > **セキュリティ** フォルダを展開して **スキーマ** フォルダを表示します。
   c) **スキーマ** フォルダを右クリックして、**新しいスキーマ** を選択します。
   d) **スキーマ名** テキスト ボックスに、新しいスキーマの名前を入力します。
   新しいスキーマ名は、以前にシステム管理者権限を使用して作成したユーザー名と一致する必要があります。
   e) スキーマの所有者として新しいユーザーにシステム管理者権限を割り当てます。

f) **OK** をクリックします。

3. データベースにスキーマを追加するには、次の操作を実行します。
   a) データベース オブジェクト ツリーを展開して、**ユーザー** フォルダを表示します。
      ユーザー フォルダは、データベースの **セキュリティ** フォルダの子です。
      たとえば、*master* データベースにスキーマを追加する場合は、**データベース** > **システム データベース** > **master** > **セキュリティ** > **ユーザー** をクリックします。
   b) 作成した管理ユーザーをダブルクリックします。**データベース ユーザー** ダイアログ ボックスが表示されます。
   c) **所有されているスキーマ** ページを選択し、作成したスキーマが新しいデータベースに割り当てられるようにチェックします。

SQL Server におけるユーザーの設定

以下の手順は、SQL Server データベースに接続する必要がある各ユーザーに対し、データベース サーバー コンピュータで実行してください。

1. SQL Server Management Studio のオブジェクト エクスプローラで、**セキュリティ** フォルダに移動して、展開します。**ログイン** フォルダを右クリックして、**新しいログイン** をクリックします。**ログイン - 新規作成** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **全般** ページを選択し、**ログイン名** テキスト ボックスにデータベースの名前を入力します。
3. **Windows 認証** または **SQL Server 認証** を選択します。
4. **既定のデータベース** リストから、デフォルト データベースを選択します。
5. **ユーザー マッピング** ページを選択します。
6. **マップ** 列で、ユーザーのログインでアクセスできるデータベースのチェック ボックスをオンにします。
   デフォルトで、**ユーザー** 列にログイン名が表示されています。この値はそのままにします。
7. **既定のスキーマ** 列に、既定のスキーマを入力します。
   Silk Test Workbench で既定のスキーマを使用するには、既定のスキーマが、以前にシステム管理者権限を使用して作成したユーザーのスキーマと一致する必要があります。
8. **データベース ロールのメンバシップ** リストで、デフォルト オプション **public** を選択したままにしておきます。
9. **db_datareader** および **db_datawriter** チェック ボックスをオンにします。
10. **OK** をクリックします。

重要: 複数のユーザーが SQL Server Express を使用するには、各 SQL Server Express インストールでリモート接続が有効になっている必要があります。SQL Server Express でリモート接続を有効にする方法については、Microsoft のサポート技術情報『*How to enable remote connections on SQL Server*』を参照してください。

SQL Server Silk Test Workbench データベースの準備

注: SQL Server 認証モードを SQL Server と Windows（混合モード）に設定して、データベース メンテナンス ユーティリティを使用して SQL Server データベースに接続できるようにする必要があります。この設定は、データベース メンテナンス タスクを実行したあと変更できます。

注: SQL Server データベースが空の場合は、このトピックで説明しているタスクのみ実行できます。

Silk Test Workbench で使用する新しい SQL Server データベースを準備する必要があります。このセクションでは、データベース メンテナンス ユーティリティを使用してデータベースに Silk Test Workbench テーブルを入力する方法について説明します。

1. (Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データベース メンテナンス**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **データベース メンテナンス** をクリックします。 **データベース メンテナンス** ユーティリティが起動されます。

2. **ファイル** > **新規作成** > **SQL Server** をクリックします。**SQL Server データ ソースの接続** ダイアログ ボックスが開きます。
3. 新しい SQL Server データ ソースの名前を入力するか、**参照** をクリックして **ODBC データ ソースの選択** ダイアログ ボックスからデータ ソース名を選択します。
4. 該当するテキスト ボックスにデータベースの所有者の名前と、SQL Server のユーザー ID およびパスワードを入力し、**作成** をクリックします。データベースの所有者は、db_owner ロールを持つユーザーです。

   注: 各 DSN 名に関連付けることができるスキーマは 1 つだけです（ODBC 接続）。選択した DSN 名がすでにスキーマに関連付けられている場合は、**置換** をクリックして DSN 名の関連付けを現在のスキーマから新しいスキーマに変更するか（ユーザーは、古いスキーマの Silk Test Workbench テーブルにはアクセスできなくなります）、**エイリアス** をクリックして DSN 名のエイリアスを作成します。

これで、Silk Test Workbench を起動してログオンする準備が整いました。

Oracle データベースの構成

このセクションでは、Silk Test Workbench で使用する Oracle データベースを設定する方法について説明します。

注: 以下の手順は、その実行者が Oracle データベース管理システムに精通していることを前提としています。データベースの設定と構成は、データベース管理者またはデータベースの管理に関する一般的な知識を持つ方が行うことをお勧めします。

各クライアント コンピュータでは、データベースに接続するために ODBC データ ソースが必要となります。この結果、Silk Test Workbench 用の Oracle データベースに接続するには、以下の条件を満たす必要があります。

- Silk Test Workbench を実行するすべてのコンピュータは、データベースが常駐するコンピュータにアクセスでき、新しいデータ ソースが構成されている必要があります。
- Silk Test Workbench は、データベースにアクセスするすべてのコンピュータにインストールされている必要があります。
- Silk Test Workbench を実行するすべてのコンピュータに、適切なデータベース クライアント接続ソフトウェアがインストールされている必要があります。
- データベース接続は、Silk Test Workbench で使用するために構成する必要があります。

認証方式の選択

Silk Test Workbench では、Oracle OS 認証（Windows NT）と Oracle データベース認証のいずれかを使用することができます。 Oracle OS 認証を使用する場合、追加のインストール手順が必要になります。

Oracle OS 認証

このトピックでは、Oracle OS 認証を使用する場合に、ユーザーを作成して接続権限を付与する方法について説明します。これらのステップを実行する前に、以下の点を考慮してください。

- ORA_DBA グループのメンバであり、かつ、SYSDBA 権限がある必要があります。
- ユーザーを作成する際は、ユーザーが DOMAIN コントローラによって認証されていることを Oracle が認識できるようにする必要があります。
- ユーザーの作成には SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を使用します。SQL*Plus を使い慣れていない場合は、Oracle のマニュアルを参照してください。
- ユーザーは Windows NT ドメイン内に作成し、ORA_DBA グループに追加する必要があります。Windows ドメインの使用の詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

- Oracle で Silk Test Workbench のユーザーを設定する場合、リモートで認証されるユーザーに加え、実際のテーブルを格納するためのスキーマを作成します。このスキーマはドメインで認証されず、パスワードで認証されます。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. SYSTEM としてログオンし、SYSDBA として接続します。
3. 各ユーザーを "DOMAIN¥USERNAME" IDENTIFIED EXTERNALLY として作成し、接続権限およびシステム権限を付与するコマンドを、以下の例に示すように入力します。

   各ユーザーは "DOMAIN¥USERNAME" のように入力します。DOMAIN¥USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。DOMAIN¥USERNAME は各ユーザーのドメインとユーザー名です。

   例：

```
CREATE USER "NT-DOMAIN¥JEFF" IDENTIFIED EXTERNALLY;
GRANT SELECT ANY SEQUENCE TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
GRANT UNLIMITED TABLESPACE TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
GRANT "CONNECT" TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
GRANT "RESOURCE" TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
GRANT "SELECT_CATALOG_ROLE" TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
```

   重要: Microsoft のオペレーティング システムでは、ユーザーを照会すると DOMAIN ¥USERNAME が返されます。この値がデータベースの定義と一致しない場合は、Oracle OS 認証で ORA-1017 のエラーが発生します。
4. SQL*Plus を使用してデータベースに接続することにより、Oracle OS 認証が正しく設定されているかどうかをテストします。
   a) ユーザー名には「/」と入力します。
   b) [パスワード] テキスト ボックスは空のままにし、ホスト文字列を正しく入力します。
   c) **OK** をクリックします。 ログオンできた場合は、Oracle OS 認証が正しく機能していることを意味します。

Oracle データベース認証

このトピックでは、Oracle データベース認証を使用する場合に、ユーザーを作成して接続権限を付与する方法について説明します。これらのステップを実行する前に、以下の点を考慮してください。

- ORA_DBA グループのメンバであり、かつ、SYSDBA 権限がある必要があります。
- ユーザーの作成には SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を使用します。SQL*Plus を使い慣れていない場合は、Oracle のマニュアルを参照してください。
- Oracle で Silk Test Workbench のユーザーを設定する場合、リモートで認証されるユーザーに加え、実際のテーブルを格納するためのスキーマを作成します。このスキーマはドメインで認証されず、パスワードで認証されます。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. SYSTEM としてログオンし、SYSDBA として接続します。
3. 各ユーザーを "USERNAME" IDENTIFIED BY “ORACLEPASSWORD” として作成し、接続権限およびシステム権限を付与するコマンドを、以下の例に示すように入力します。

   各ユーザーは "USERNAME" のように入力します。USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。DOMAIN¥USERNAME は各ユーザーのユーザー名です。

   例：

```
CREATE USER "JEFF" IDENTIFIED BY “ORACLEPASSWORD”;
GRANT SELECT ANY SEQUENCE TO "JEFF";
GRANT UNLIMITED TABLESPACE TO "JEFF";
GRANT "CONNECT" TO "JEFF";
GRANT "RESOURCE" TO "JEFF";
GRANT "SELECT_CATALOG_ROLE" TO "JEFF";
```

Oracle データベースの新規作成

次の文字セットを使用する新しい Oracle データベースを作成します。

- UTF8： Oracle 12 より前のバージョンの Oracle
- AL32UTF8： Oracle 12 以降

詳細については、Oracle の製品マニュアルを参照してください。

Oracle OS 認証の設定

注: この手順は、Oracle OS 認証を使用する場合にのみ必要です。Oracle データベース認証を使用する場合は、Oracle クライアントをセットアップする必要があります。

1. データベースがあるサーバーで、Oracle をインストールしたディレクトリにある Oracle 初期化ファイルを探します。
2. Oracle 初期化ファイルで、以下のパラメータの値を設定します。
   - remote_login_passwordfile = none
   - remote_os_authent = true
   - os_authent_prefix = ""

   注: パラメータと値のうち存在しないものがある場合は、追加する必要があります。Oracle 11g では、remote_os_authent および os_authent_prefix パラメータはデフォルトで設定されています。
3. Oracle をインストールしたディレクトリで、SQLNET.ORA ファイルを探します。

   このファイルは、Oracle のメイン インストール ディレクトリの下の ORACLE_HOME¥Network¥Admin ディレクトリにあります。ORACLE_HOME は、インストール時に Oracle ホームに割り当てた名前です。
4. SQLNET.ORA を開いて、以下のようにパラメータの値を設定します。

   ```
   sqlnet.authentication_services = (NTS)
   ```

   注: このパラメータの行頭が # でコメントアウトされていないことを確認します。このパラメータは、追加する必要がある場合があります。
5. **スタート** メニューから、**ファイル名を指定して実行** ダイアログ ボックスにアクセスします。
6. **名前** テキスト ボックスに「regedit」と入力して **OK** をクリックします。**レジストリ エディタ** ダイアログ ボックスが開きます。
7. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥HOMEn (*n* は Oracle インストールに関連付けられた番号) パスで、HOMEn を右クリックして、**新規** > **文字列値** を選択します。レジストリ エディタの右側のウィンドウに、新しい文字列の値が表示されます。
8. デフォルト名の 新しい値 #1 を OSAUTH_PREFIX_DOMAIN に置き換えます。
9. 作成した文字列の値をダブルクリックします。**文字列の編集** ダイアログ ボックスが開きます。
10. **値のデータ** テキスト ボックスに「TRUE」と入力して **OK** をクリックします。

Oracle クライアントの設定

接続元として使用するクライアント コンピュータで、以下を実行します。

1. Oracle をインストールしたディレクトリで、SQLNET.ORA ファイルを探します。

   このファイルは、Oracle のメイン インストール ディレクトリの下の ORACLE_HOME¥Network¥Admin ディレクトリにあります。ORACLE_HOME は、インストール時に Oracle ホームに割り当てた名前です。

2. SQLNET.ORA を開いて、以下のようにパラメータの値を設定します。

   sqlnet.authentication_services = (NTS)

   注: このパラメータの行頭が # でコメントアウトされていないことを確認します。 このパラメータは、追加する必要がある場合があります。
3. Oracle をインストールしたディレクトリで、TNSNAMES.ORA ファイルを開きます。

   このファイルは ORACLE_HOME¥Network¥Admin ディレクトリにあります。
4. サーバーのデータベース エントリをクライアント コンピュータ上の TNSNAMES.ORA ファイルにコピーします。
   例：

```
ORACLE_SID.DOMAIN.COM=
(DESCRIPTION=
(ADDRESS_LIST=
(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=SERVERNAME)(PORT=1521))
)
(CONNECT_DATA=
(SERVICE_NAME=ORACLE_SID)
)
)
```

クライアント接続用の Oracle データベースの準備

注: この手順は、Oracle OS 認証および Oracle クライアントを使用して Silk Test Workbench データベースを設定する場合にのみ必要です。 Oracle データベース認証を使用する場合は、ユーザーの設定を開始することができます。

1. ドメイン ユーザー マネージャがインストールされているコンピュータで、Windows の **コントロール パネル** にアクセスし、**管理ツール** > **コンピュータの管理**を選択します。

   コンピュータの管理 ユーティリティが開きます。
2. ツリー ビューで、**ローカル ユーザーとグループ** をクリックします。
3. **グループ** をクリックします。

   Oracle がインストールされている場合、ORA_DBA という名前のグループが表示されます。 表示されない場合は、追加する必要があります。

次に、ユーザーに対してサーバー アクセスを作成します。

ORA_DBA グループの作成

1. **コンピュータの管理** ユーティリティのツリー ビューで、**グループ** を右クリックして **新しいグループ** を選択します。 **新しいグループ** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **グループ名** テキスト ボックスに「ORA_DBA」と入力します。
3. **作成** をクリックします。
4. **閉じる** をクリックします。

ユーザーに対するサーバー アクセスの作成

ユーザー アカウントを個別に作成するには、以下の手順に従います。

1. **コンピュータの管理** ユーティリティのツリー ビューで、**ローカル ユーザーとグループ** をクリックします。
2. **グループ** をクリックします。
3. 右側のペインで、**ORA_DBA** をダブルクリックします。 **ORA_DBA のプロパティ** ダイアログ ボックスが開きます。

4. **追加** をクリックします。 **ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択** ダイアログ ボックスが開きます。
5. **詳細設定** をクリックし、**共通クエリ** タブを使用してユーザーを検索し、**今すぐ検索** をクリックして、リストからユーザーを選択します。

   または、**選択するオブジェクト名を入力してください** テキスト ボックスをクリックし、domain name¥user ID を入力します。

   domain name はユーザーが所属するドメインの名前であり、user ID はアクセス権を付与する対象ユーザーのネットワーク ID です。
6. **OK** をクリックしてユーザー情報を保存し、**ORA_DBA のプロパティ** ダイアログ ボックスに戻ります。

   ステップ 4 から 6 を繰り返して、その他のユーザー アカウントを作成します。
7. **Users のプロパティ** ダイアログ ボックスで **OK** をクリックし、**コンピュータの管理** ユーティリティに戻ります。

Oracle における Silk Test Workbench のユーザーの設定

このセクションでは、ユーザーを作成してユーザーの接続権限を付与する方法について説明します。この手順は Oracle OS 認証または Oracle データベース認証のどちらを使用する場合にも必要です。手順は認証タイプによって異なります。

Oracle OS 認証

ユーザーを作成する際は、ユーザーが DOMAIN コントローラによって認証されていることを Oracle が認識できるようにする必要があります。

重要:

Oracle で Silk Test Workbench のユーザーを設定する場合、リモートで認証されるユーザーに加え、実際のテーブルを格納するためのスキーマも作成する必要があります。このスキーマはドメインで認証されず、パスワードで認証されます。詳細については、「パスワード認証スキーマの作成」を参照してください。

ユーザーは Windows NT ドメイン内に作成する必要があります。Windows ドメインの使用の詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

ユーザーは ORA_DBA グループに追加する必要があります。ユーザーの作成には SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を使用します。SQL*Plus を使い慣れていない場合は、Oracle のマニュアルを参照してください。

以下の手順を実行するユーザーは、ORA_DBA グループのメンバーであり、SYSDBA 権限を持っている必要があります。Oracle データベースにアクセスできるユーザーを指定するには、以下を実行します。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. SYSTEM としてログオンし、SYSDBA として接続します。
3. 各ユーザーを作成するコマンドを "DOMAIN¥USERNAME" IDENTIFIED EXTERNALLY として入力し、各ユーザーの接続権限を "DOMAIN¥USERNAME" として付与します。DOMAIN¥USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。DOMAIN¥USERNAME は各ユーザーのドメインとユーザー名です。例：

```
SQL> create user "NT-DOMAIN¥JEFF" IDENTIFIED EXTERNALLY;
SQL> grant connect, resource to "NT-DOMAIN¥JEFF";
```

注: SELECT_ANY_SEQUENCE と SELECT_CATALOG_ROLE もユーザーに付与する必要があります。例：

```
SQL> grant select any sequence to "JEFF";
SQL> grant select_catalog_role to "JEFF";
```

Microsoft のオペレーティング システムでは、ユーザーを照会すると DOMAIN¥USERNAME が返されます。この値がデータベースの定義と一致しない場合は、NT 認証で ORA-1017 のエラーが発生します。

4. SQL*Plus を使用してデータベースに接続することにより、Windows NT 認証が正しく設定されているかどうかをテストします。ユーザー名には「/」と入力します。**パスワード** フィールドは空のままにし、ホスト文字列を正しく入力します。**OK** をクリックします。ログオンできた場合は、Windows NT 認証が正しく機能していることを意味します。

Oracle データベース認証

重要: Oracle で Silk Test Workbench のユーザーを設定する場合、リモートで認証されるユーザーに加え、実際のテーブルを格納するためのスキーマも作成する必要があります。スキーマはパスワード認証されます。詳細については、「パスワード認証スキーマの作成」を参照してください。

ユーザーの作成には SQL*Plus を使用します。SQL*Plus を使い慣れていない場合は、Oracle のマニュアルを参照してください。以下の手順を実行するユーザーは、ORA_DBA グループのメンバーであり、SYSDBA 権限を持っている必要があります。

Oracle データベースにアクセスできるユーザーを指定するには、以下を実行します。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. SYSTEM としてログオンし、SYSDBA として接続します。
3. 各ユーザーを作成するコマンドを "USERNAME" IDENTIFIED BY "ORACLEPASSWORD" として入力し、各ユーザーの接続権限を "USERNAME" として付与します。USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。DOMAIN¥USERNAME は各ユーザーのユーザー名です。例：

```
SQL> create user "JEFF" IDENTIFIED BY "ORACLEPASSWORD";
SQL> grant connect, resource to "JEFF";
```

注: SELECT_ANY_SEQUENCE、 SELECT_CATALOG_ROLE、SELECT_ANY_DICTIONARY もユーザーに付与する必要があります。例：

```
SQL> grant select any sequence to "JEFF";
SQL> grant select_catalog_role to "JEFF";
SQL> grant select any dictionary to "JEFF";
```

パスワード認証スキーマの作成

Silk Test Workbench テーブルが格納されるパスワード認証スキーマを設定するには、以下のステップを実行します。

注: SQL シリーズにおける Oracle の文字数制限のため、パスワード認証スキーマは 5 文字以下で指定する必要があります。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. SYSTEM としてログオンし、SYSDBA として接続します。
3. 各ユーザーを作成するコマンドを "USERNAME" IDENTIFIED BY "ORACLEPASSWORD" として入力し、各ユーザーの接続権限を "USERNAME" として付与します。

   USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。USERNAME は各ユーザーのユーザー名です。例：

```
SQL> create user "TOM" IDENTIFIED BY "ORACLEPASSWORD";
SQL> grant connect, resource to "TOM";
```

Oracle データベースの準備

Silk Test Workbench で使用する新しい Oracle データベースを準備する必要があります。 このセクションでは、**データベース メンテナンス** ユーティリティを使用してデータベースに Silk Test Workbench テーブルを入力する方法について説明します。

1. (Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データベース メンテナンス**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **データベース メンテナンス** をクリックします。 **データベース メンテナンス** ユーティリティが起動されます。
2. **ファイル** > **新規作成** > **Oracle** をクリックします。 **Oracle データ ソースの接続** ダイアログ ボックスが開きます。
3. 新しい Oracle データ ソースの名前を入力するか、**参照** をクリックして **ODBC データ ソースの選択** ダイアログ ボックスからデータ ソース名を選択します。
4. 該当するボックスに、Oracle ユーザー ID の名前、パスワードを入力し、**作成** をクリックします。 **スキーマ** ボックスには、ユーザー ID に入力した値が自動的に入力されます。

これで、Silk Test Workbench を起動してログオンする準備が整いました。

ドメインなしでの SQL Server または Oracle データベースの設定

Silk Test Workbench で使用する Oracle または SQL Server のデータベースを設定する際は、ドメイン内の認証を使用することを強くお勧めします。 ただし、ドメインに所属しない場合でも、これらのデータベースを設定することは可能です。

このセクションでは、ドメインを使用して SQL Server または Oracle データベースを設定する具体的な方法について説明します。

ドメインなしでのユーザーの作成

ドメインがない場合に SQL Server または Oracle データベースを設定するには、最初にクライアント コンピュータとサーバー コンピュータの両方でユーザー アカウントを作成する必要があります。

注: この手順は Windows NT 認証を使用する場合にのみ適用されます。

1. Windows の **コントロール パネル** にアクセスし、**管理ツール** > **コンピュータの管理** を選択します。

   コンピュータの管理 ユーティリティが開きます。
2. 左側のペインで、**ローカル ユーザーとグループ** をクリックします。
3. **ローカル ユーザーとグループ** で、**ユーザー** フォルダを右クリックし、**新しいユーザー** を選択します。 **新しいユーザー** ダイアログ ボックスが開きます。
4. **ユーザー名** テキスト ボックスに有効なユーザー名を入力し、**フル ネーム** テキスト ボックスにそのユーザーのフル ネームを入力します。
5. **パスワード** と **パスワードの確認入力** の両方のテキスト ボックスに有効なパスワードを入力し、**作成** をクリックします。
6. 各クライアント コンピュータでそのユーザー名とパスワードを使用して、上記の手順を繰り返します。

ドメインなしでの SQL Server の設定

ドメインがない場合に SQL Server を設定するには：

1. Windows の **コントロール パネル** にアクセスし、**管理ツール** > **コンピュータの管理** を選択します。

   コンピュータの管理 ユーティリティが開きます。
2. 左側のペインで、**ローカル ユーザーとグループ** を展開し、**グループ** をクリックします。
3. 右側のペインで、**Users** をダブルクリックします。

   Users のプロパティ ダイアログ ボックスが開きます。
4. **追加** をクリックします。

   ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択 ダイアログ ボックスが開きます。
5. **詳細設定** をクリックし、**共通クエリ** タブを使用してユーザーを検索します。
6. **今すぐ検索** をクリックして、リストからユーザーを選択します。

   または、**選択するオブジェクト名を入力してください** テキスト ボックスをクリックし、アクセス権を付与する対象ユーザーの [user ID] を入力します。[user ID] :
7. **OK** をクリックしてユーザー情報を保存し、**Users のプロパティ** ダイアログ ボックスに戻ります。
8. 上記のステップを繰り返して、その他のユーザー アカウントを作成します。
9. **OK** をクリックします。

ドメインなしでの Oracle データベースの設定

ドメインがない場合に Oracle を設定するには、個別のユーザー アカウントに対してサーバー アクセスを作成する手順に従います。ただし、ドメインなしでユーザーを作成する手順で作成したユーザー名を置き換えます。

1. **選択するオブジェクト名を入力してください** テキスト ボックスに、[domain name]¥[user ID] や [domain name]¥[group name] ではなくユーザー名を入力します。

   コンピュータの管理 ユーティリティが表示されます。
2. ユーザーを設定します。

   SQL*Plus を使用してユーザーを作成する場合は、以下の例に示すように [domain name¥user name] を [computer name¥user name] に置き換えます。

```
SQL> create user "FH0002RED¥USER1" IDENTIFIED EXTERNALLY;
SQL> grant connect, resource to "FH0002RED¥USER1";
```

   注:

   [computer name¥user name] の場合、大文字を使用して引用符で囲みます。

データ ソース名の作成

Silk Test Workbench 用にセットアップしたデータベースにアクセスするために、データベースに接続する各マシン上で、ODBC ユーティリティを使用して Silk Test Workbench データベースに対するデータ ソース名 (DSN) を作成します。

注: このステップは、Silk Test Workbench インストーラによってインストールされたデフォルトの Access データベースには適用されません。これらのデータベースでは、データ ソース名が自動的に作成されます。

Access データベース用のデータ ソース名の作成

Access データベースに接続する各クライアント コンピュータで、以下の手順に従って DSN を設定します。

1. **スタート** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データソース (ODBC)** に移動します。 **ODBC データ ソース アドミニストレータ** ダイアログ ボックスが開きます。

2. **システム DSN** タブをクリックし、**追加** をクリックします。**データ ソースの新規作成** ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスには、使用可能な ODBC ドライバがリストされます。
3. ドライバのリストから **Microsoft Access Driver** を選択し、**完了** をクリックします。 **ODBC Microsoft Access セットアップ** ダイアログ ボックスが開きます。
4. **データ ソース名** テキスト ボックスに、データ ソース名を入力します。

   この名前はログオン ダイアログ ボックスでデータベース名として表示されるため、論理名を入力します。
5. **説明** テキスト ボックスに、データ ソースの説明を入力します。
   たとえば、「Silk Test Workbench データベースへの接続」です。
6. **選択** をクリックして、Access データベースを参照します。
7. **ODBC Microsoft Access セットアップ** ダイアログ ボックスで、**OK** をクリックします。
8. **ODBC アドミニストレータ** ダイアログ ボックスで、**OK** をクリックしてプロセスを完了します。

SQL Server データベース用のデータ ソース名の作成

注: Silk Test Workbench では、64 ビットの DSN は使用できません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、**スタート** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データ ソース (ODBC)** をクリックして、32 ビット DSN を作成します。C:¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用することもできます。

SQL Server データベースに接続する各クライアント コンピュータで、以下の手順に従って DSN を設定します。

1. **スタート** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データソース (ODBC)** に移動します。 **ODBC データ ソース アドミニストレータ** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **システム DSN** タブをクリックし、**追加** をクリックします。**データ ソースの新規作成** ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスには、使用可能な ODBC ドライバがリストされます。
3. ドライバのリストから **DBC Driver 11 for SQL Server** を選択し、**完了** をクリックします。**SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する** ダイアログ ボックスが開きます。
4. **名前** ボックスに、データ ソース名を入力します。

   この名前はログオン画面でデータベース名として表示されるため、論理名を入力します。
5. **説明** テキスト ボックスに、データ ソースの説明を入力します。
   たとえば、「Silk Test Workbench データベースへの接続」です。
6. サーバー名を **サーバー** テキスト ボックスに入力するか、ドロップダウン リストから選択します。
7. **次へ** をクリックします。
8. 以下のいずれかを実行します。

   - DSN を使用して SQL Server データベースにアクセスするユーザーが非ネイティブのアカウント情報によって接続している場合、**ネットワークへのログイン ID で、Windows の認証メカニズムを使う** オプションを選択します。
   - DSN を使用して SQL Server データベースにアクセスするユーザーがネイティブ認証によって接続している場合、**ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う** オプションを選択します。**SQL Server に接続して追加の構成オプションの既定設定を取得する** チェック ボックスがオンになっていることを確認してください。ユーザーのネイティブ SQL Server ログオン情報を、**ログイン ID** と **パスワード** の各テキスト ボックスに入力します。
9. **次へ** をクリックします。
10. **既定のデータベースを以下のものに変更する** チェック ボックスをオンにして、リストからデータベースの名前を選択します。
11. その他のエントリはすべてそのままにし、ウィザードの最後のパネルが表示されるまで **次へ** をクリックします。
12. デフォルトをそのまま使用し、**完了** をクリックします。

13接続をテストするには、**データ ソースのテスト** をクリックします。**SQL Server ODBC データ ソース テスト** ダイアログ ボックスが開きます。

14**OK** をクリックします。

ODBC データ ソース アドミニストレータ ダイアログ ボックスが再表示されます。新しく作成したデータ ソースが **システム データ ソース** リストに表示されます。

15**OK** をクリックします。

Oracle データベース用のデータ ソース名の作成

注: Silk Test Workbench では、64 ビットの DSN は使用できません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、**スタート** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データ ソース (ODBC)** をクリックして、32 ビット DSN を作成します。C:¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用することもできます。

Oracle データベースに接続する各クライアント コンピュータで、以下の手順に従って DSN を設定します。

1. **スタート** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データソース (ODBC)** に移動します。 **ODBC データ ソース アドミニストレータ** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **システム DSN** タブをクリックし、**追加** をクリックします。**データ ソースの新規作成** ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスには、使用可能な ODBC ドライバがリストされます。
3. ドライバのリストから、使用する Oracle データベースのバージョンに適した Oracle ODBC ドライバ (Microsoft ODBC for Oracle ドライバではない) を選択し、**完了** をクリックします。 **Oracle ODBC ドライバ構成** ダイアログ ボックスが開きます。
4. **Oracle データ ソース名** テキスト ボックスに、データ ソース名を入力します。

   この名前はログオン ダイアログ ボックスでデータベース名として表示されるため、論理名を入力します。
5. **説明** テキスト ボックスに、データ ソースの説明を入力します。
   たとえば、「Silk Test Workbench データベースへの接続」です。
6. **TNS サービス名** テキスト ボックスで、接続するデータベースのサービス名を ORACLE_TNS.DOMAIN の形式で選択してください。大抵の場合、 ORACLE_TNS は、作成時にデータベースに割り当てられた Oracle SID であり、DOMAIN は、接続するドメインになります。

   注: ODBC を使用して Silk Test Workbench に接続するには、TNS サービス名は必須です。
7. Oracle 認証を使用する場合は、接続先のデータベースの有効なユーザー ID を **ユーザー ID** テキスト ボックスに入力します。 それ以外の場合は、**ユーザー ID** テキスト ボックスは空のままにします。
8. 接続をテストするには、**接続テスト** をクリックします。

   注: Oracle データベース認証を使用する場合、ユーザー名を入力してから、パスワードを入力します。 Oracle OS 認証では、ユーザー名を指定しないでください。

   正常に接続されたことを示すメッセージが表示されます。
9. **OK** をクリックします。

データベースへ接続する

Silk Test Workbench をインストールしてデータベースを構成したあと、データベース接続を作成する必要があります。この接続によって、Silk Test Workbench データベースと Silk Test Workbench インストールとの関係を定義します。このセクションでは、ログオンしてデータベース接続を作成する方法について説明するトピックを示します。

ログオン

1. (Microsoft Windows 7) **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **Silk Test** > **クライアント** > **Silk Test Workbench**、または (Microsoft Windows 10) **スタート** > **Silk** > **Silk Test Workbench** をクリックします。 Silk Test Workbench が起動され、**SilkTest Workbench にログイン** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **認証** リスト ボックスから、**Silk Test Workbench** 認証、または **Windows** 認証のいずれか使用する方を選択します。

   注: Windows 認証を使用できるユーザーは、**ツール** > **管理** を使用して Silk Test Workbench ユーザーに追加されたユーザーだけです。
3. **Silk Test Workbench** 認証を使用している場合、**ユーザー名** フィールドにユーザー名を入力し、**パスワード** フィールドにパスワードを入力します。**Windows** 認証を使用している場合は、ユーザー名とパスワードを入力する必要はありません。

   注: Silk Test Workbench をはじめて使用する場合は、管理者権限を持つユーザー名とパスワードが必要になる場合があります。デフォルトのユーザー名は Admin で、デフォルトのパスワードは admin です。不正アクセスを防ぐため、このパスワードはログオンのあとで変更してください。ログオン パスワードはいつでも変更できます。
4. **データベース** リストから、使用するデータベースを選択します。

   データベースが **データベース** リストに表示されるようにするには、まずデータベース接続を使用できるように構成する必要があります。データベース接続を構成するには、**ログオン** ダイアログ ボックスで **構成** ボタンをクリックします。
5. **OK** をクリックします。**開始画面** が開きます。

ログオン パスワードの変更

ログオン パスワードを変更するには、以下の手順に従います。

1. **ツール** > **パスワードの変更** をクリックします。**パスワードの変更** ダイアログ ボックスが開きます。現在のユーザーのログオン名が、ダイアログ ボックスのタイトル バーに表示されます。
2. パスワードを変更し、**OK** をクリックします。このユーザー ID を使って次回ログオンしたとき、変更が有効になります。

データベース接続の構成

Silk Test Workbench でデータベースを使用する前に、データベース接続を構成する必要があります。構成処理には、**データベース接続の構成** ダイアログ ボックスを使用した以下のタスクの実行が含まれています。

- データベース接続を開始するために必要なデータベース接続データを指定します。
- データベースへの接続を検証します。
- データベース接続のデータを保存します。

既存のすべての構成済みデータベース接続は、Silk Test Workbench ダイアログ ボックスにある **データベース** リストに表示されます。

データベース接続の構成 ダイアログ ボックスは、既存の構成済みデータベース接続の表示、編集、および削除に使用することもできます。

注: Silk Test Workbench で使用するデータベース接続を構成する前に、データベース インスタンスと ODBC データ ソース名（DSN）を作成および構成しておく必要があります。

注: Silk Test Workbench では、64 ビットの DSN は使用できません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、**スタート** > **Silk** > **Silk Test** > **管理** > **データ ソース (ODBC)** をクリックして、32 ビ

ット DSN を作成します。C:¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用することもできます。

1. Silk Test Workbench **にログイン** ダイアログ ボックスで、**構成** をクリックします。**データベース接続の構成** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **データ ソースの種類** セクションで、データ ソースの種類を選択します。
3. **データ ソースの選択** リストで、使用可能な DSN のリストから選択します。
4. 選択した DSN を Silk Test Workbench **にログイン** ダイアログ ボックスの **データベース** リストに表示される構成済みデータベース接続のリストに追加するには、 **Silk Test Workbench データベースとして使用** チェック ボックスをオンにします。

   データベース接続をはじめて構成するときは、必ずこのチェック ボックスをオンにしてください。既存の構成済みデータベース接続に対して **Silk Test Workbench データベースとして使用** チェック ボックスをオフにして **適用** をクリックすると、選択した DSN がダイアログ ボックスの **データベース** リストから削除されます。Silk Test Workbench は関連するデータベース接続のデータを保持しません。
5. **データベースの設定** セクションで、選択した DSN に対して適切な情報を指定します。Access では、**データベース** ボックスは読み取り専用で、データベース ファイルの場所を示します。この値は ODBC DSN から直接読み取られます。他の **データベースの設定** テキスト ボックスは、Access には適用されず、無効になっています。Oracle では、**サーバー** テキスト ボックスは読み取り専用で、データベース名のみが表示されます。この値は ODBC DSN から直接読み取られます。
6. **データベース** ボックスに、適切な値を入力します。SQL Server/MSDE では、**データベース** テキスト ボックスは編集可能で、適切なデータベース名を入力することができます。
7. **所有者** ボックスに、適切な値を入力します。
8. 認証の種類を選択します。

   認証 オプションは、Oracle データベースまたは SQL Server/MSDE データベースにのみ適用されます。Windows NT 認証を使用するか、データベースのネイティブ認証機能を使って認証するかを選択できます。データベース認証を選択する場合、適切なテキスト ボックスにユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
9. **検証** をクリックして、指定したデータベース接続データを使用してデータベースに接続できることを確認します。
10. **適用** をクリックして、データベース接続データを保存します。
11. **閉じる** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

索引

記号

Apple Safari のテスト
    Information Service、インストール 46
Silk4J のインストール 24
前提条件
    Apple Safari 46

A

Apple Safari
    前提条件 46
    Information Service、インストール 46

C

CD からのインストール
    サイレント モード 43

D

DSN
    Access 59
    Oracle 61
    SQL Server 60
    概要 59

E

Eclipse プラグイン
    インストール 24

I

Information Service
    Mac、インストール 46
iOS
    Information Service、インストール 46

M

Mac
    Apple Safari、前提条件 46
    Information Service、インストール 46

O

Oracle
    ORA_DBA グループの作成 55
    Oracle 認証の設定 54
    OS 認証 52
    概要 52
    クライアント接続用のデータベースの準備 55
    クライアントの設定 54
    データベースの準備 58
    データベースの新規作成 54
    ドメインなしでの設定 58, 59
    認証方式 52
    パスワード認証スキーマ 57
    ユーザー、設定 52
    ユーザーに対するサーバー アクセスの作成 55
    ユーザーの設定 53, 56

R

Rumba
    サポートの有効化と無効化 28

S

Safari
    前提条件 46
Silk Meter
    アンインストールする 13
    インストールする 12
    接続のテスト 13
    ライセンス サーバー上にインストールする 13
Silk Test Workbench
    インストールする 22
Silk4J
    手動インストール 27
Silk4NET
    手動インストール 31
SQL Server
    SQL Server データベースの新規作成 50
    管理ユーザー、作成 50
    構成する 49
    データベースの準備 51
    ドメインなしでの設定 58
    ユーザーの設定 51

T

TEMP
    環境変数、再設定 15

V

Visual Studio 2017 Agent
    統合する 32
Visual Studio プラグイン
    手動インストール 31

あ

アップグレード
    ライセンス 48
アンインストール
    SilkTest 37

い

インストール
- Information Service、Mac 46
- Silk4NET 28, 31
- 概要 5
- サイレント モード 43
- プロセスの概要 15

インストールする
- Silk Test 19
- Silk Test Workbench 22
- Silk Test 標準スイート 16
- Silk4J 27
- SilkTest 32
- エージェント 34
- サイレント モード 38
- サイレント モード、エラーの表示 44
- 実行環境 34

え

エラー コード
- 表示 44

か

概要
- Oracle データベースの構成 52
- インストール 5
- インストールされる項目 9

管理者アクセス許可
- 必要 9

管理者権限
- 必要 9

こ

構成する
- SQL Server 49

さ

サイレント モード
- CD からのインストール 43
- Web インストーラを使用したインストール 42
- アンインストール 45
- インストーラの設定 39
- インストール 43
- インストールする 38
- エラー コードの表示 44
- プロパティー ファイルの作成 38

サイレント モードでのインストール
- Web インストーラ 42
- インストーラの設定 39

作成
- DSN 59

サンプル アプリケーション
- リスト 9

し

実行可能ファイル
- ダウンロード 16

せ

接続
- データベース 61

接続の設定
- データベース 62

た

ダウンロード
- 実行可能ファイル 16

ち

チュートリアル 47

て

データ ソース名（DSN）
- 作成 59

データ ソース名（DSN）の作成
- Access 59

データ ソース名 (DSN) の作成
- Oracle 61
- SQL Server 60

データベース
- Oracle、作成 54
- 構成 49
- 接続 61
- 接続、設定 62

データベース接続
- 構成 62
- 構成する 62

データベース接続の構成 62

と

ドメインなしでの設定
- Oracle の設定 59
- SQL Server 58

ドメインなしでのデータベースの設定
- ユーザーの作成 58

は

パスワードを変更する
- ログオン 62

ほ

ホスト ID
- 調べる 12

ゆ

ユーザーの設定
- Oracle 52

ら

ライセンス
    概要 12
    ポリシーの生成 12
    利用可能なライセンスの種類 11
ライセンス管理
    テスト接続 13
ライセンス サーバー
    要件 12

ろ

ログイン
    Silk Test Workbench 62
ログオン
    Silk Test Workbench 62
ログオン パスワード
    変更する 62